

東北森林管理局管内の 木材需給及び木材価格等について

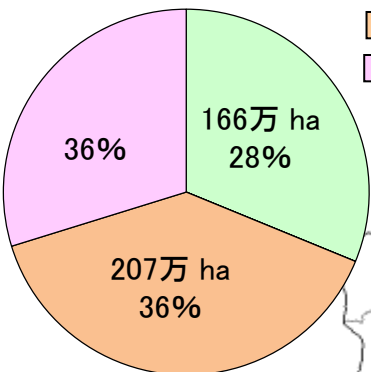
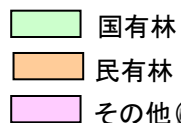
平成27年6月25日(木)

東北森林管理局

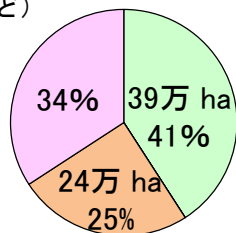
東北森林管理局管内各県の森林面積及び森林蓄積量

- 東北5県の総蓄積は約7億m³で、全国49億m³の14%に相当。
- 国有林は森林面積の45%を占めるが、蓄積では35%。私有林のhaあたり蓄積は各県200 m³/haを上回る。
- 国有林面積割合が3割を超えるのは青森・秋田・山形で、青森・山形では森林面積の5割を上回る。

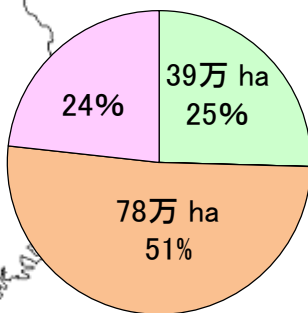
東北5県計



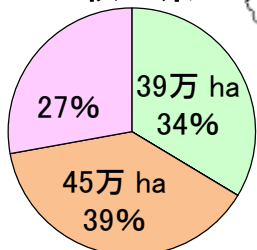
青森県



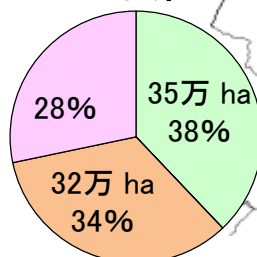
岩手県



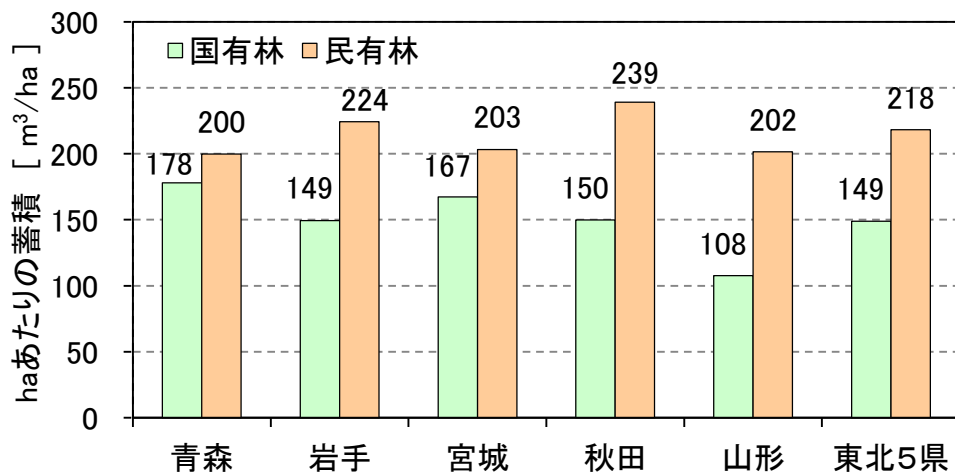
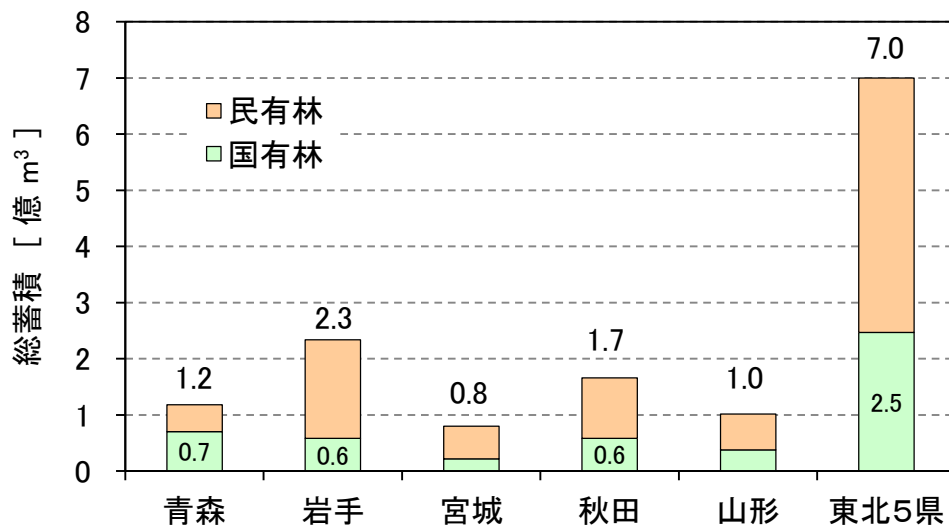
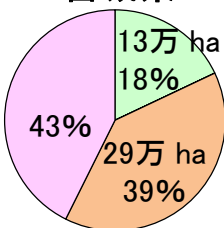
秋田県



山形県



宮城県

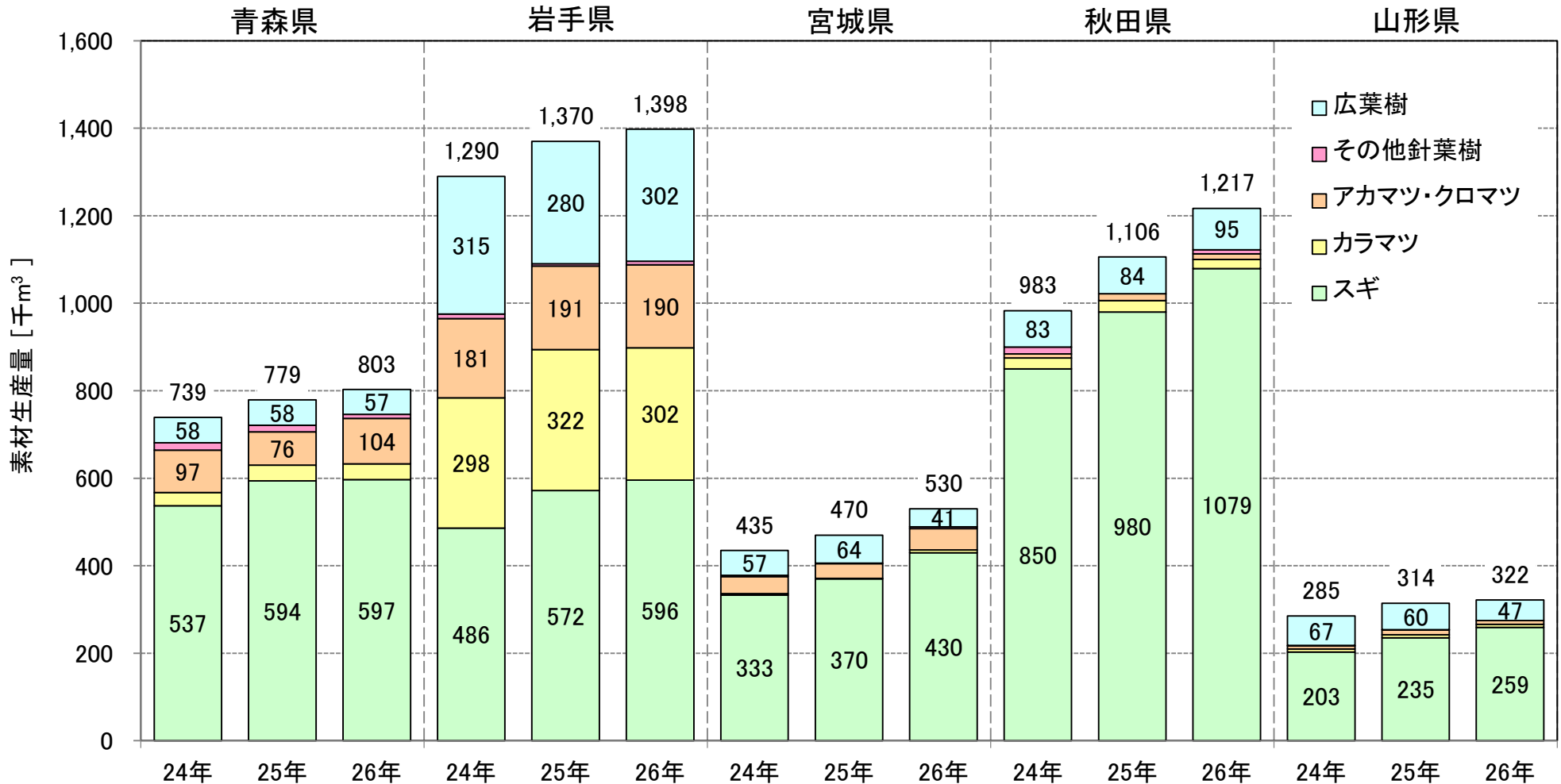


出典：林野庁「森林資源現況総括表」(平成24年3月31日現在)
国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」(平成25年10月1日)

■ 東北森林管理局管内各県の国産材の樹種別素材生産量（民・国の合計）

○ 生産樹種は県によって大きく異なる。青森県・宮城県・秋田県・山形県ではスギが主体である。岩手県ではスギに加えてマツ・カラマツ・広葉樹の生産量が多い。

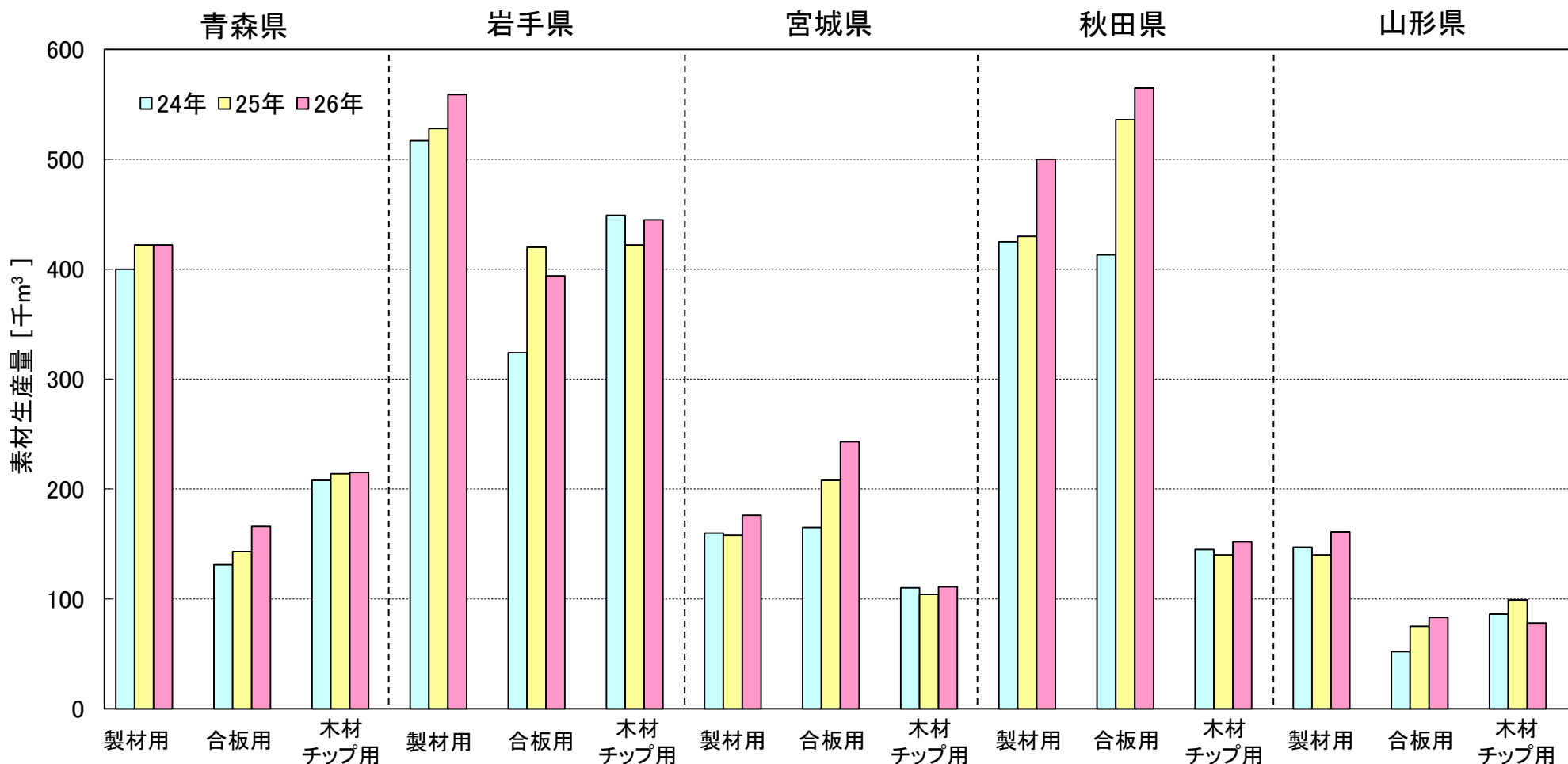
○ 26年を24年と比較すると合計では青森県+9%、岩手県+8%、宮城県+22%、秋田県+24%、山形県+13%で、スギでは、青森県+11%、岩手県+23%、宮城県+29%、秋田県+27%、山形県+28%である。



出典：農林水産省「木材統計」

東北森林管理局管内各県の需要部門別国産材の素材生産量

- 26年の製材用比率が高いのは青森県(53%)、山形県(50%)で、低いのは宮城県(33%)である。
- " 合板用の比率が高いのは宮城県(46%)、秋田県(46%)で、低いのは青森県(21%)である。
- " 木材チップ用の比率が高いのは岩手県(32%)、青森県(27%)で、低いのは秋田県(12%)である。
- 24年から26年にかけて、製材用は5県合計で+10%、合板用は同+34%、木材チップ用は同±0%の増加率である。



平成25年における東北森林管理局管内各県の素材流通構造

- 東北森林管理局管内5県で生産された素材は、管内での流通が98%を占める。
- 青森県、山形県では生産量が需要量を上回り、特に青森県は生産量の48%を他県に出荷。宮城県は需要量は生産量の約2.3倍で、岩手県、山形県、青森県等から入荷している。

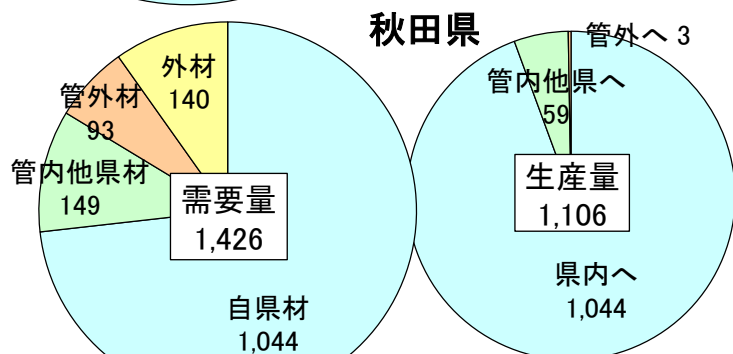
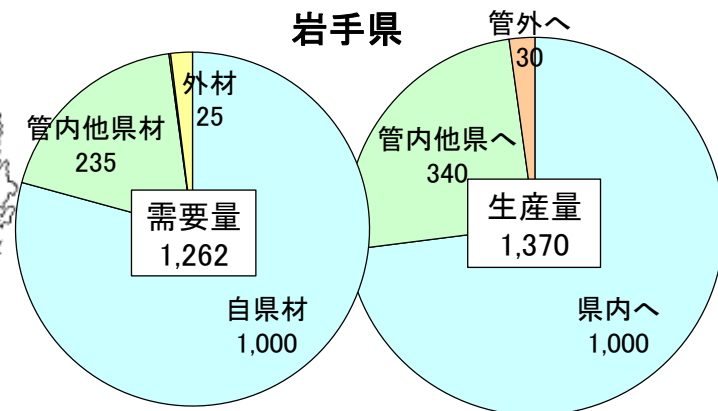
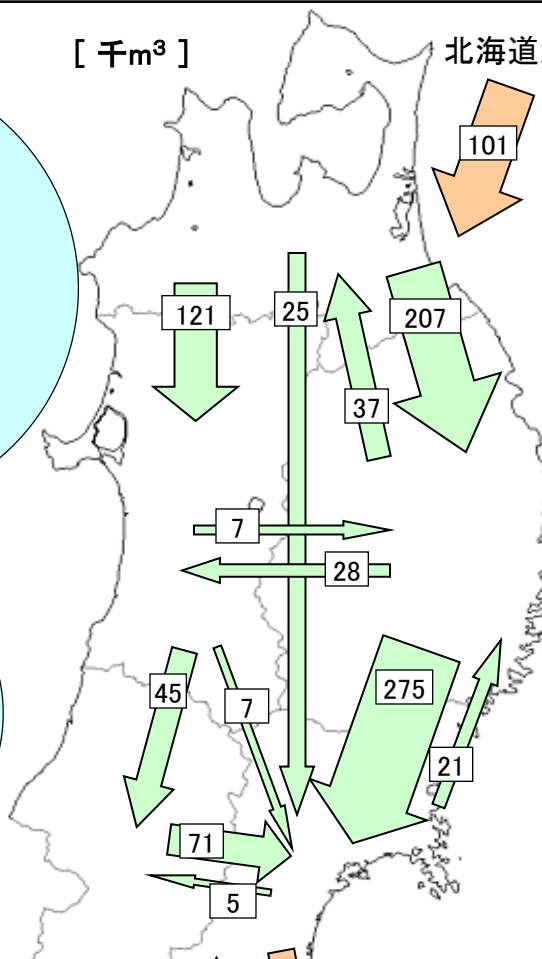
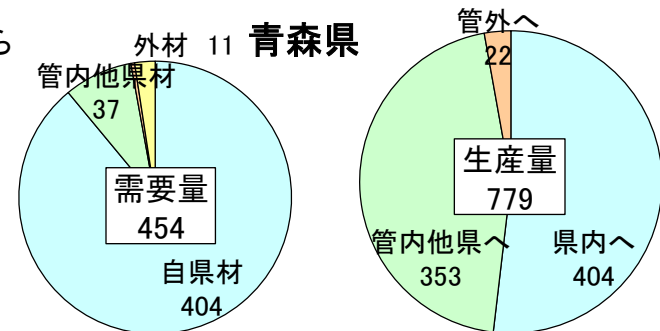
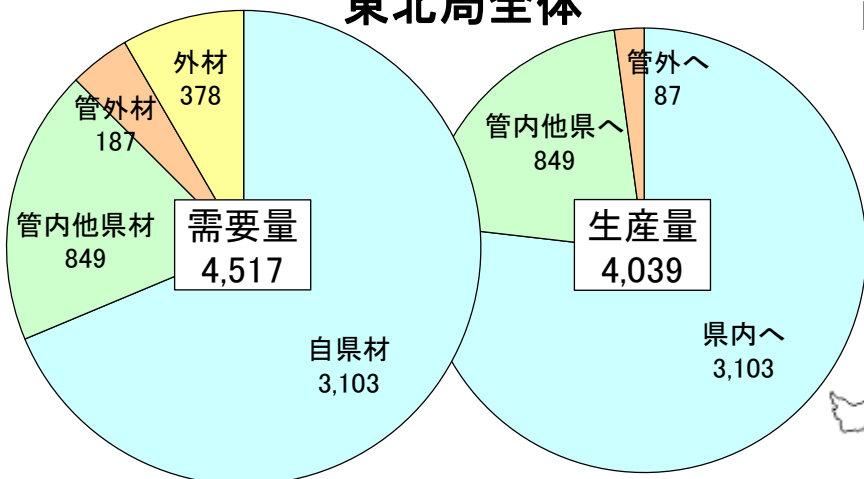
東北局全体

[千m³]

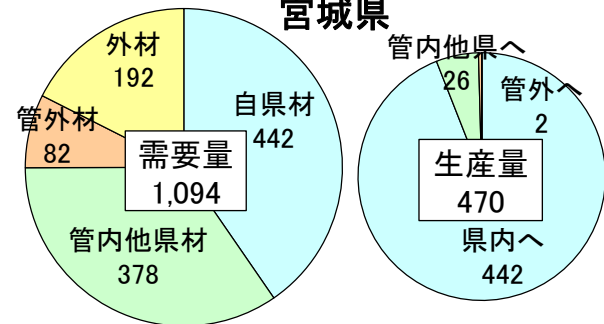
北海道から

外材 11 青森県

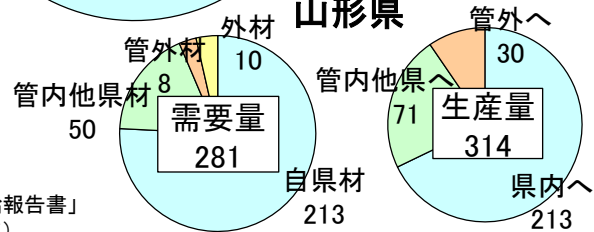
管外へ



宮城県



山形県

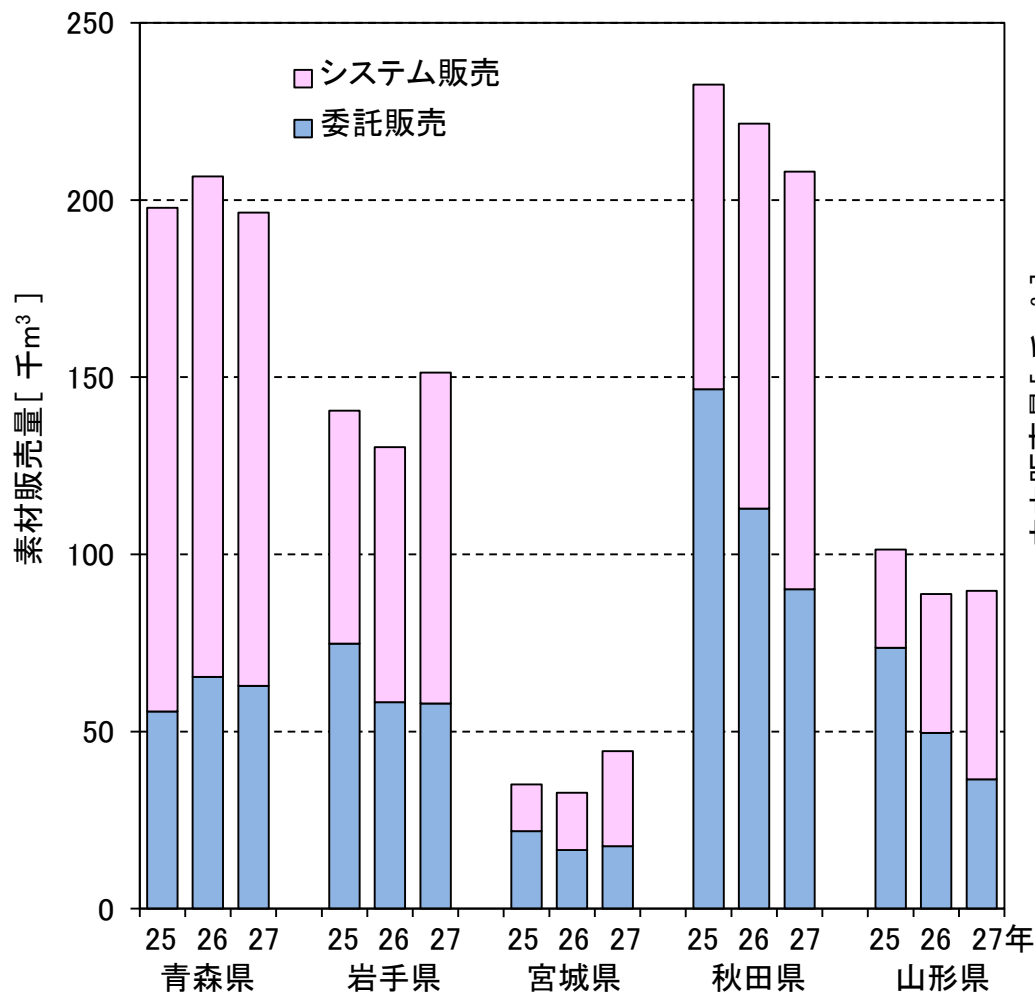


出典: 農林水産省
「木材需給報告書」
(平成25年)

東北森林管理局管内5県の国有林材の販売実績の推移

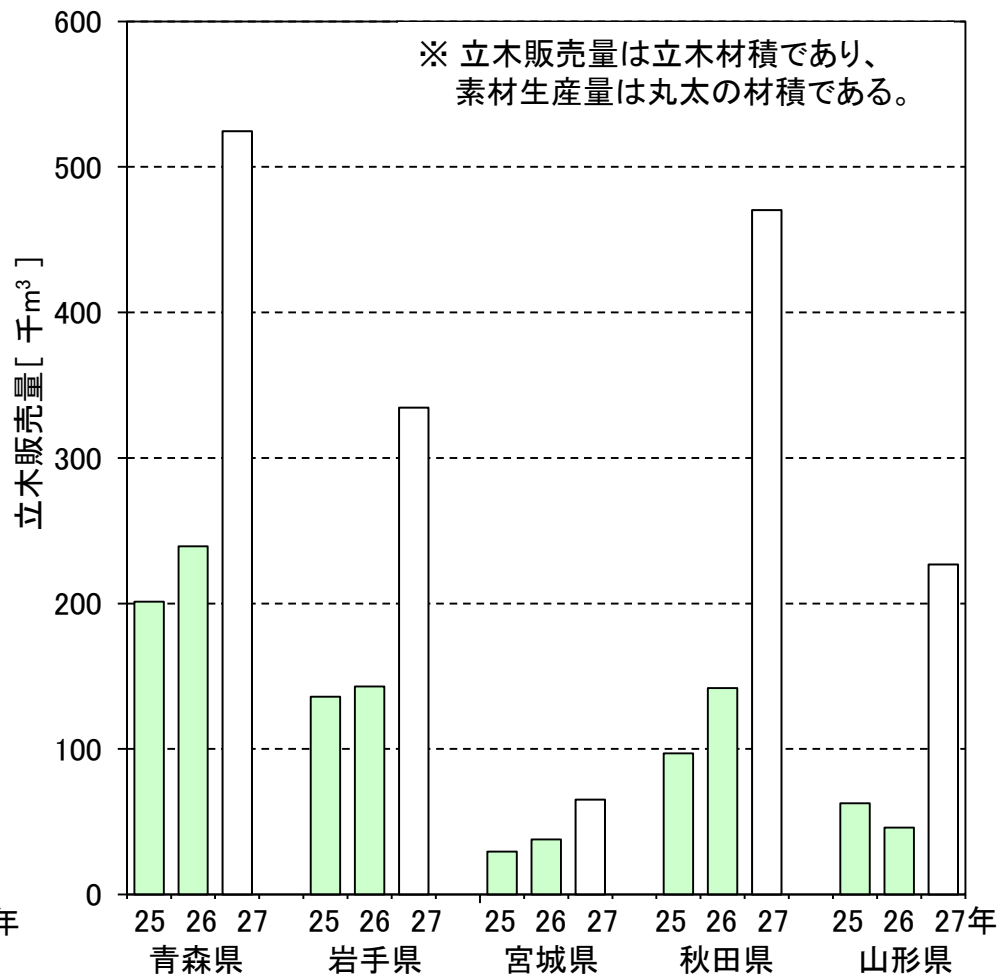
- 委託販売は減少傾向、システム販売は増加傾向にあり、27年度計画では、全県で過半数を超えた。
- 立木販売実績は、青森県、岩手県が多い。27年度計画では各県とも大幅に増えている。

素材販売



※ 27年は計画量

立木販売

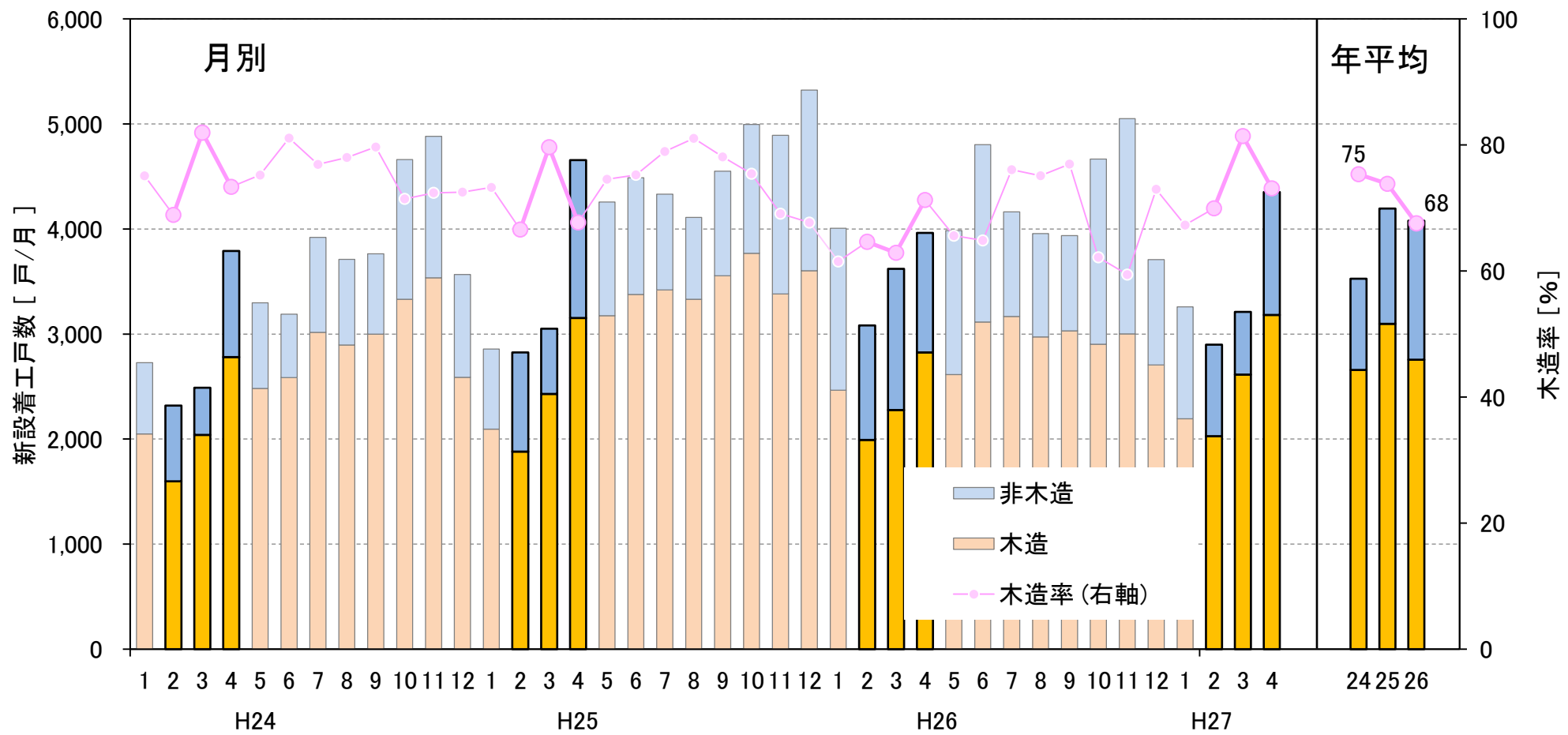


※ 27年は計画量

■ 東北森林管理局管内5県の新設住宅着工戸数の推移 (平成24年1月～27年4月)

○ 東北5県の新設住宅着工数は、4月は5ヶ月ぶりに前年度比増加に転じ、平成27年2～4月期の新設住宅着工数は、26年同期比－2%、25年同期比－1%、24年同期比＋22%。木造率は75%で26年同期比＋8%、24年同期比±0%。

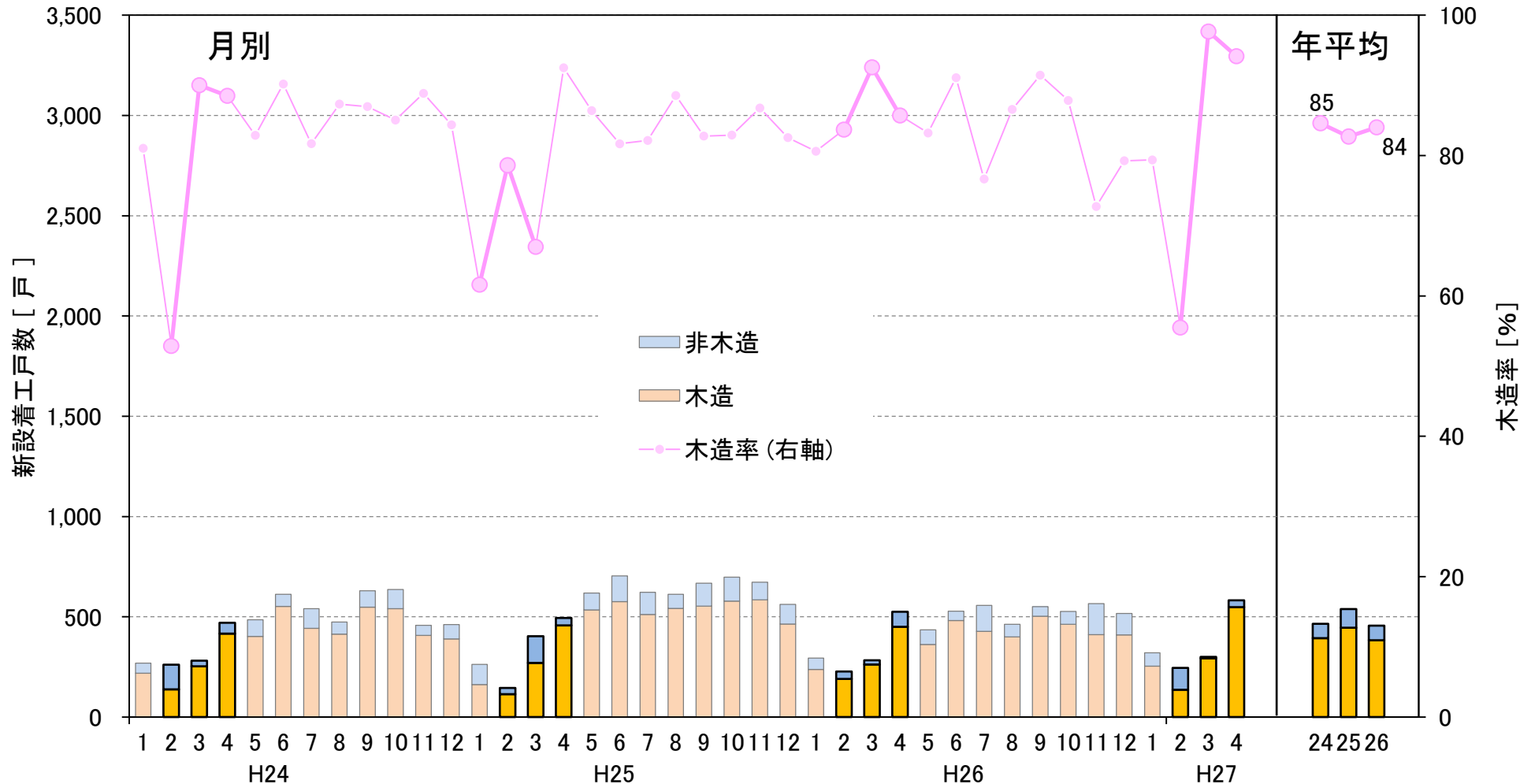
- 年平均木造率は低下傾向。
- 着工数は、秋の需要期の後、冬場に向かって急激に落ちる傾向。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

青森県の新設住宅着工戸数の推移 (平成24年1月～27年4月)

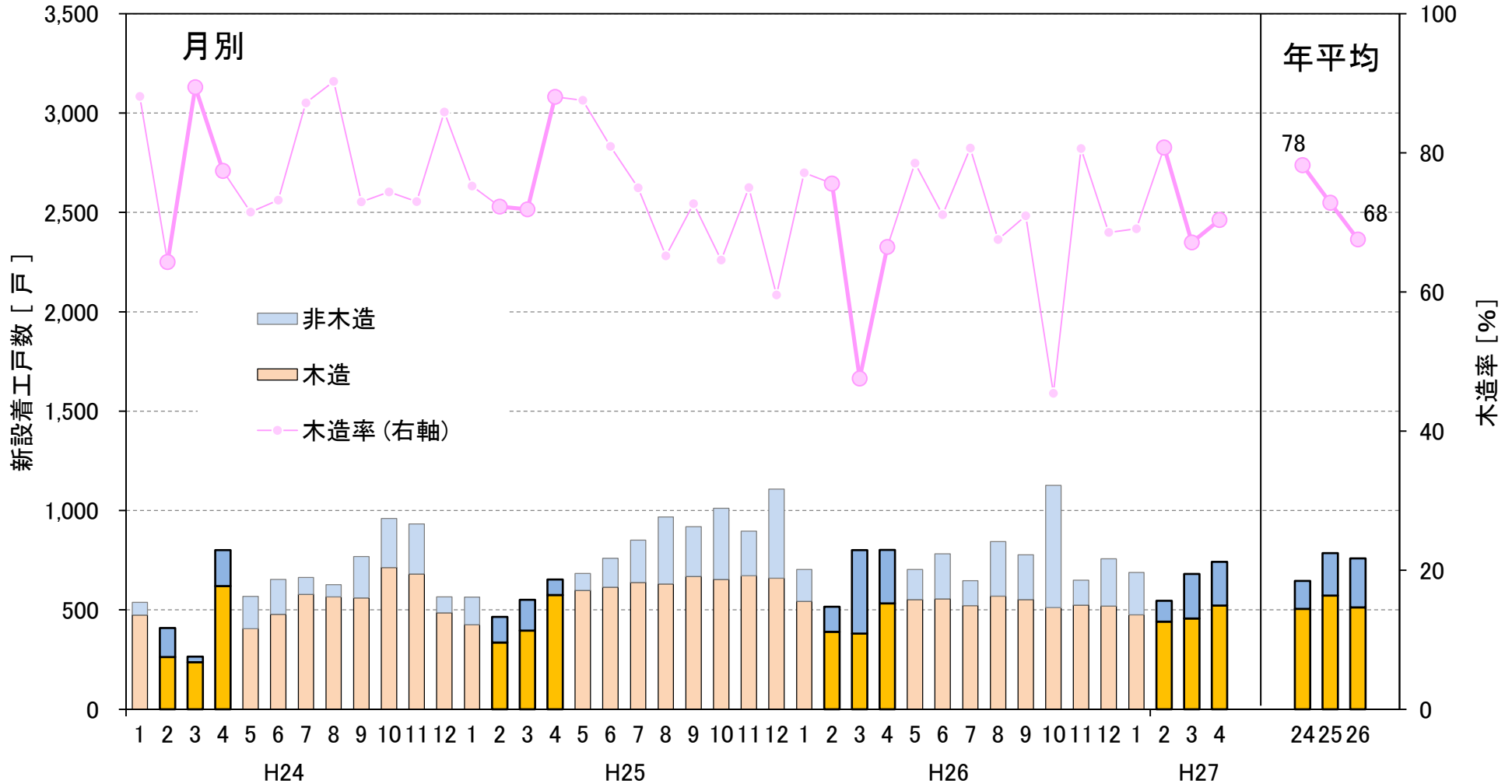
○ 青森県の平成27年2～4月期の新設住宅着工数は、26年同期比+9%、25年同期比+8%、24年同期比+11%。木造率は87%で26年同期比±0%、24年同期比+7%。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

岩手県の新設住宅着工戸数の推移 (平成24年1月～27年4月)

○ 岩手県の平成27年2～4月期の新設住宅着工数は、26年同期比－7%、25年同期比＋18%、24年同期比＋33%。木造率は72%で26年同期比＋10%、24年同期比－4%。

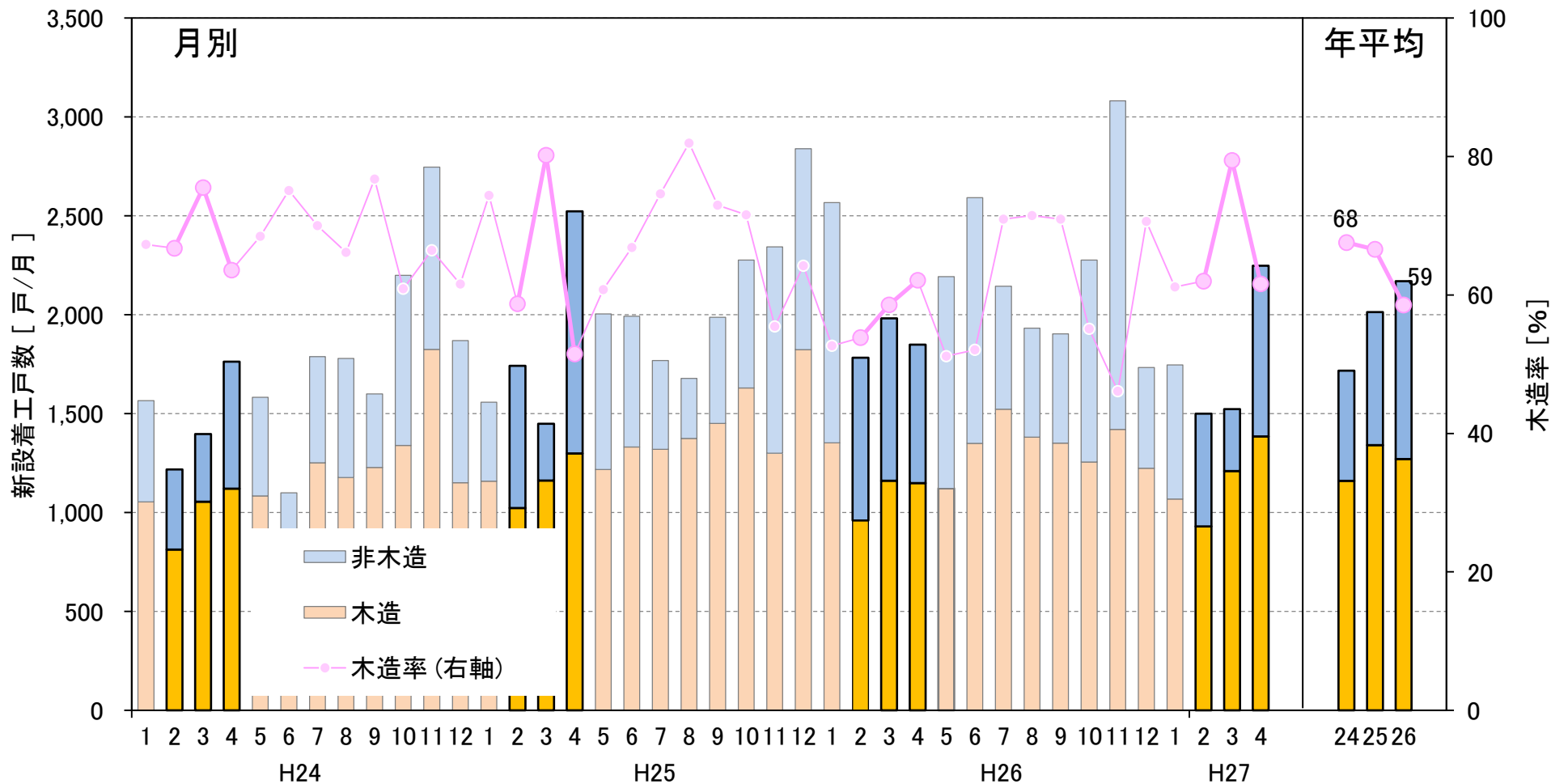


出典：国土交通省「住宅着工統計」

宮城県の新設住宅着工戸数の推移 (平成24年1月～27年4月)

○ 宮城県の平成27年2～4月期の新設住宅着工数は、26年同期比－6%、25年同期比－8%、24年同期比＋20%。木造率は67%で26年同期比＋9%、24年同期比－1%。

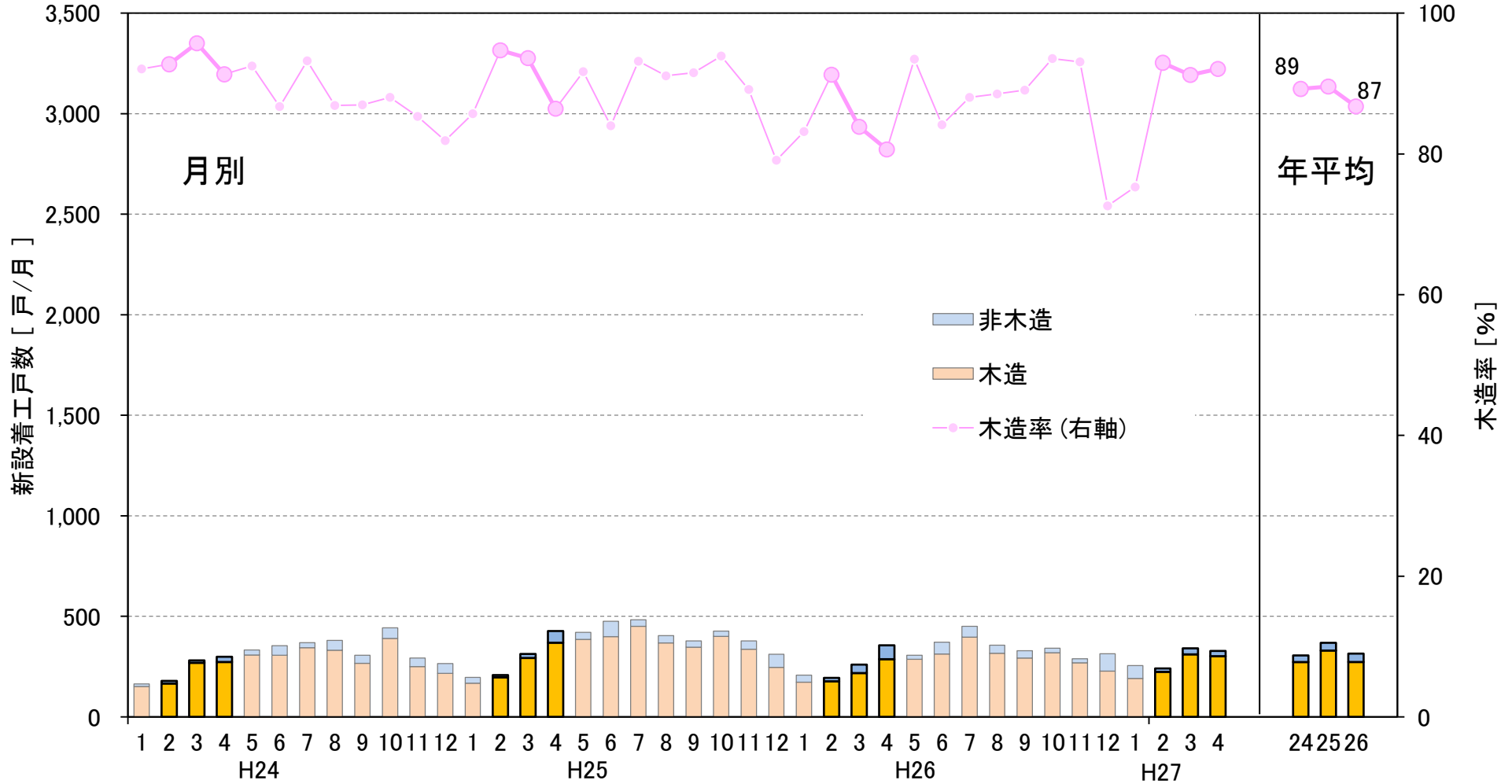
➤ 平成26年の新設着工数は2,170戸/月。24年は1,717戸/月で＋23%の増加。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

■ 秋田県の新設住宅着工戸数の推移 (平成24年1月～27年4月)

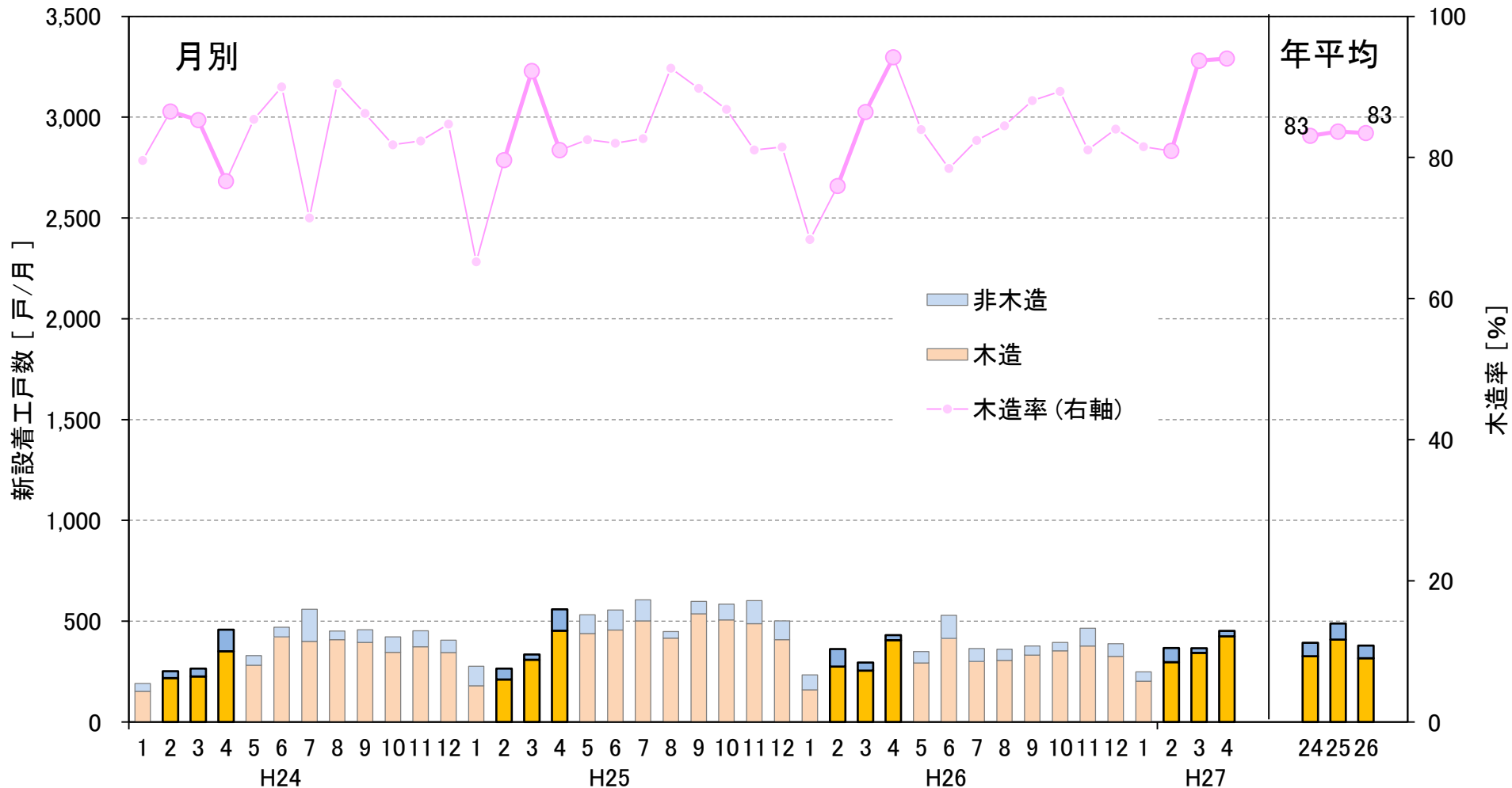
○ 秋田県の平成27年2～4月期の新設住宅着工数は、26年同期比+12%、25年同期比-4%、24年同期比+20%。木造率は92%で26年同期比+8%、24年同期比-1%。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

山形県の新設住宅着工戸数の推移 (平成24年1月～27年4月)

○ 山形県の平成27年2～4月期の新設住宅着工数は、26年同期比+9%、25年同期比+2%、24年同期比+22%。木造率は90%で26年同期比+4%、24年同期比+8%。

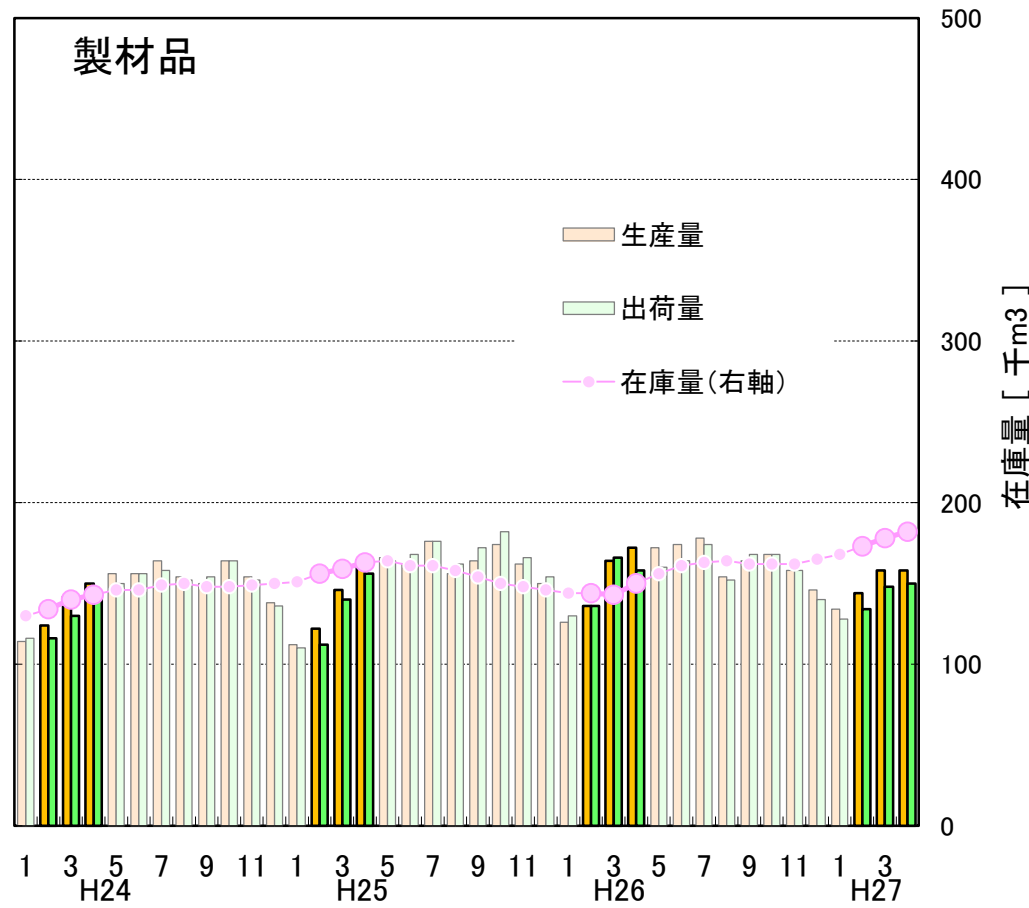
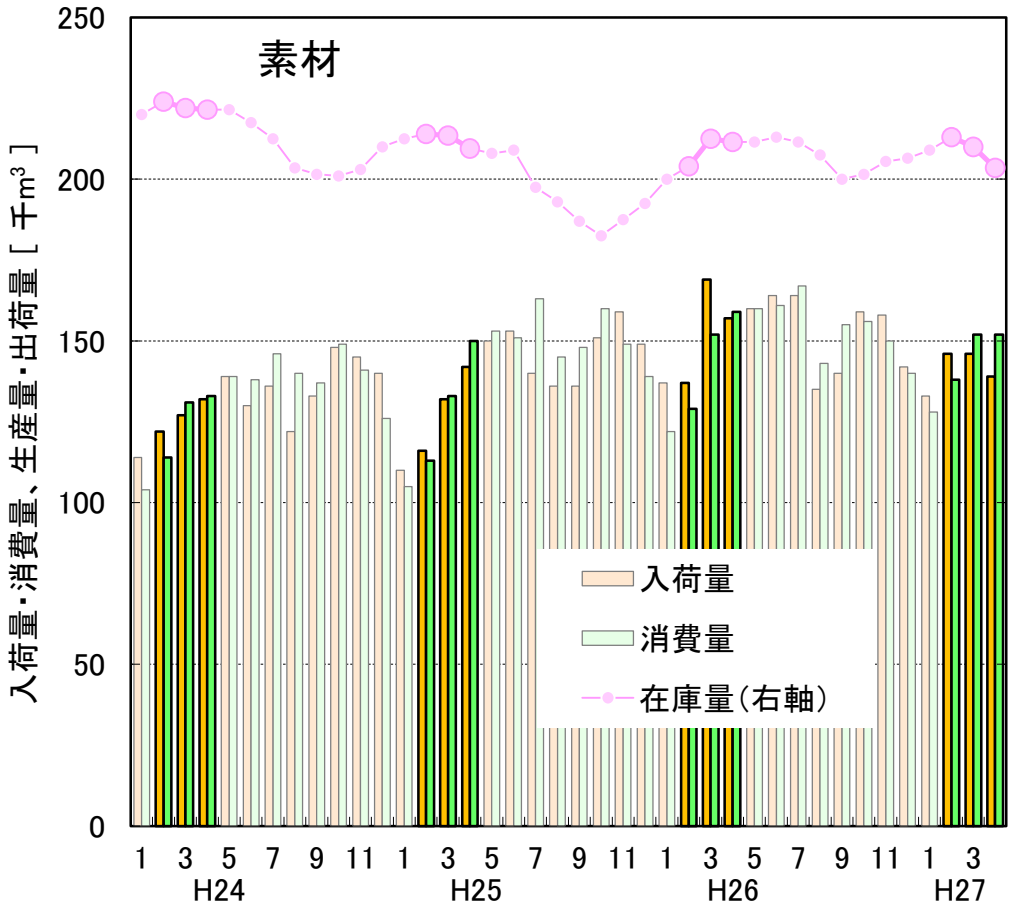


出典：国土交通省「住宅着工統計」

■ 東北5県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成24年1月～27年4月）

- 東北5県の製材用素材の平成27年2～4月の入荷量は26年同期比－7%、24年同期比＋13%、消費量は26年同期比±0%、24年同期比＋17%、在庫量は26年同期比±0%、24年同期比－6%。
- 製材品の平成27年2～4月の生産量は26年同期比－3%、24年同期比＋11%、出荷量は26年同期比－6%、24年同期比＋11%、在庫量は26年同期比＋22%、24年同期比＋28%。

- 素材の在庫は秋から冬に増え、冬から春に減る傾向。
- 製材品の在庫は春から夏に向かって増加する傾向。

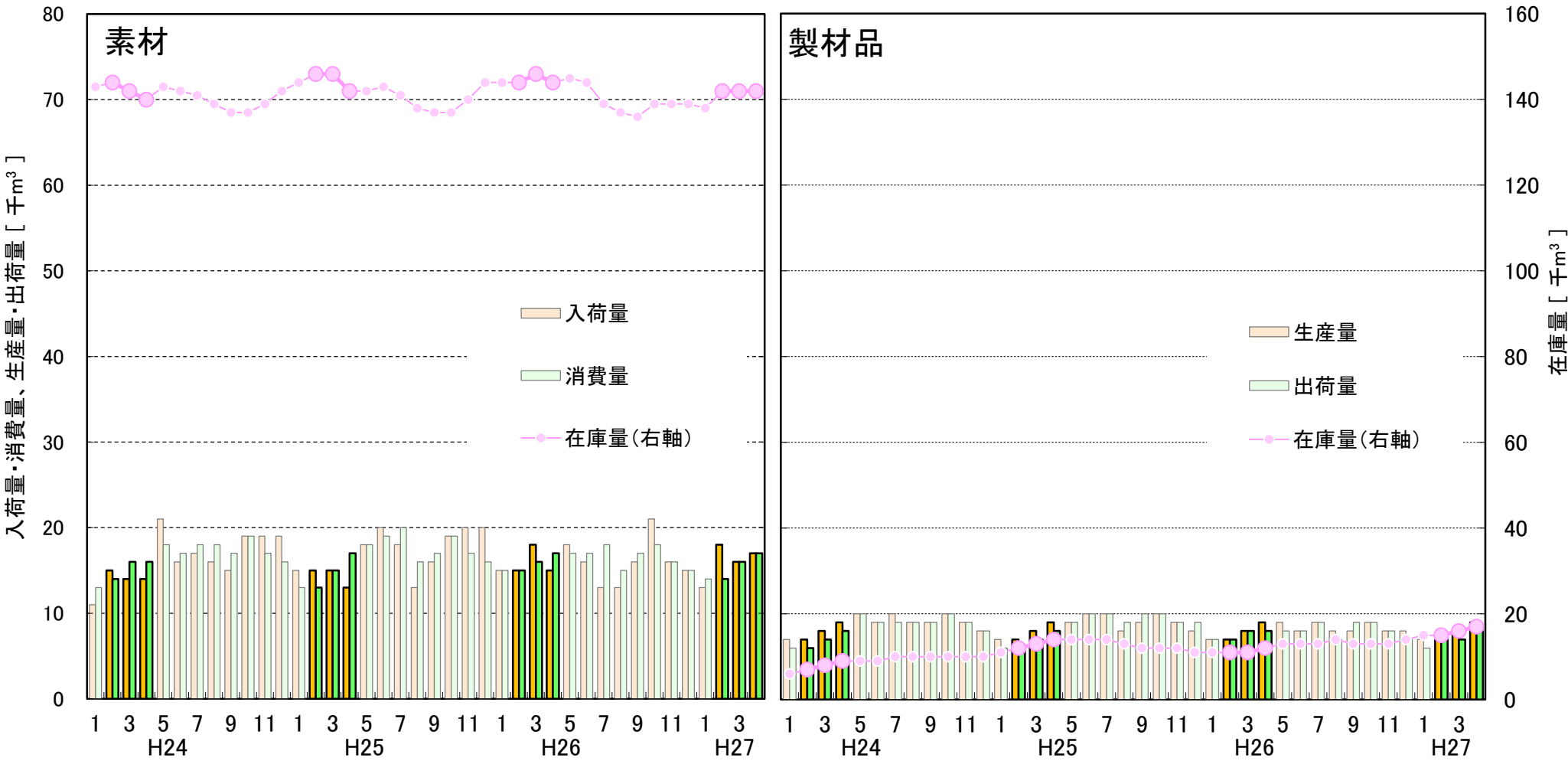


出典：農林水産省「木材需給報告書」「製材統計」

※ 国産材と外材の合計値である。

青森県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成24年1月～27年4月）

- 製材用素材の平成27年2～4月の入荷量は26年同期比+6%、24年同期比+19%、消費量は26年同期比-2%、24年同期比+2%、在庫量は26年同期比-2%、24年同期比±0%。
- 製材品の平成27年2～4月の生産量は26年同期比±0%、24年同期比±0%、出荷量は26年同期比-4%、24年同期比+5%、在庫量は26年同期比+41%、24年同期比+100%。



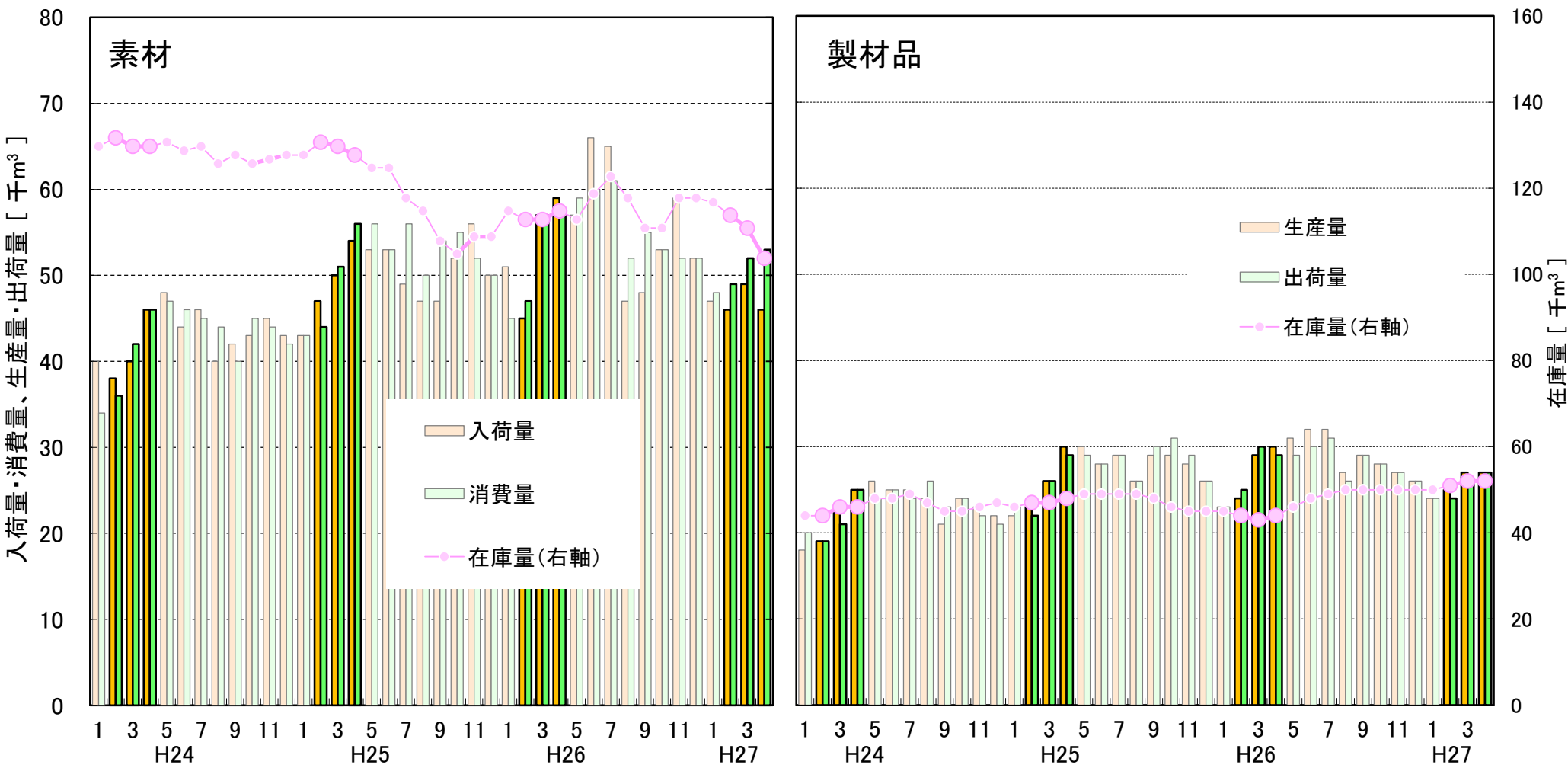
出典：農林水産省「木材需給報告書」「製材統計」

※ 国産材と外材の合計値である。

岩手県の製材用素材・製材品の生産量の推移 (平成24年1月～27年4月)

○ 製材用素材の平成27年2～4月の入荷量は27年同期比－12%、24年同期比＋14%、消費量は26年同期比－4%、24年同期比＋24%、在庫量は26年同期比－4%、24年同期比－16%。

○ 製材品の平成27年2～4月の生産量は26年同期比－5%、24年同期比＋18%、出荷量は26年同期比－8%、24年同期比＋18%、在庫量は26年同期比＋18%、24年同期比＋14%。

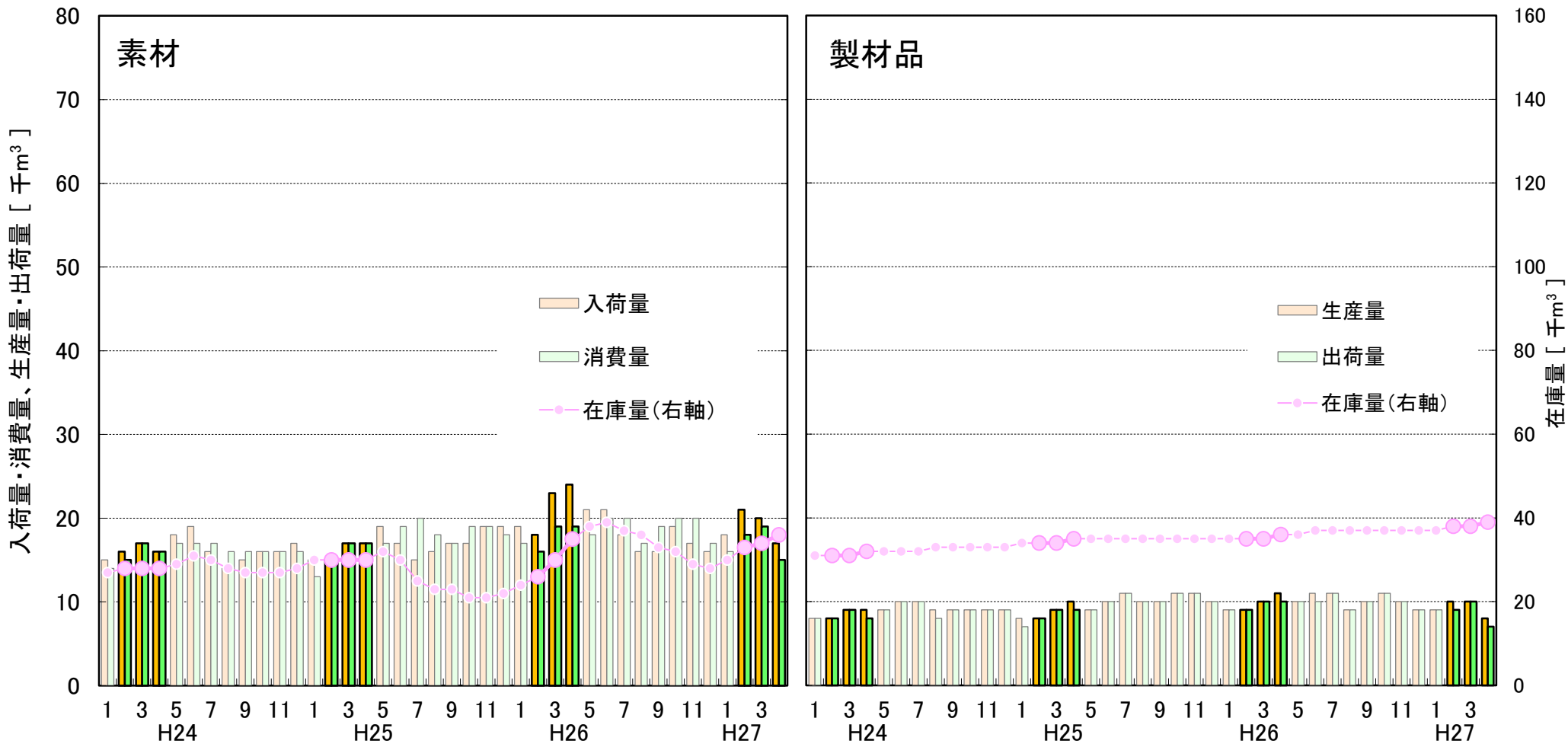


出典：農林水産省「木材需給報告書」「製材統計」

※ 国産材と外材の合計値である。

宮城県の製材用素材・製材品の生産量等の推移 (平成24年1月～27年4月)

- 製材用素材の平成27年2～4月の入荷量は26年同期比－11%、24年同期比＋18%、消費量は26年同期比－4%、24年同期比＋8%、在庫量は26年同期比＋13%、24年同期比＋23%。
- 製材品の平成27年2～4月の生産量は26年同期比－7%、24年同期比＋8%、出荷量は26年同期比－10%、24年同期比＋4%、在庫量は26年同期比＋8%、24年同期比＋22%。



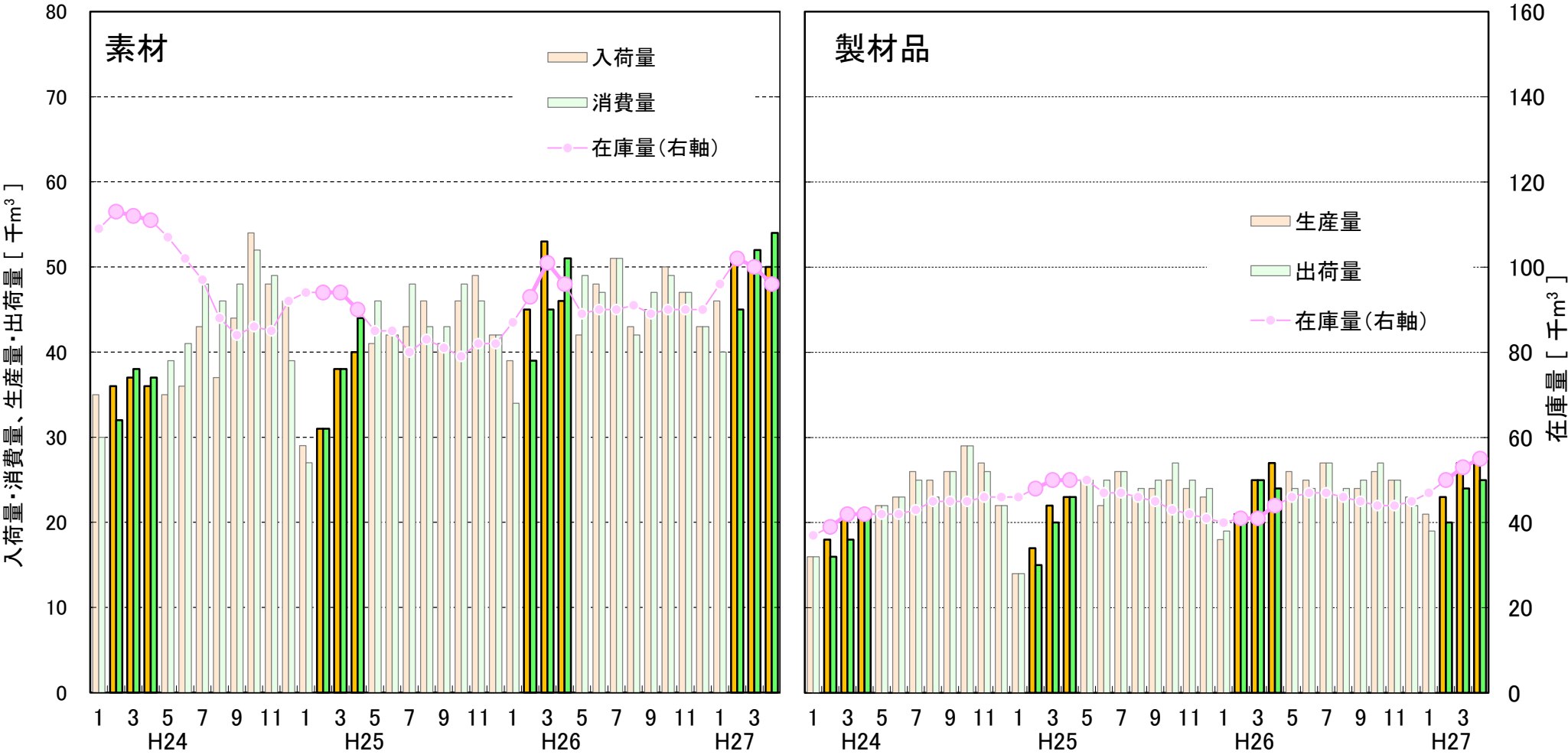
出典：農林水産省「木材需給報告書」「製材統計」

※ 国産材と外材の合計値である。

■ 秋田県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成24年1月～27年4月）

○ 製材用素材の平成27年2～4月の入荷量は26年同期比+5%、24年同期比+39%、消費量は26年同期比+12%、24年同期比+41%、在庫量は26年同期比+3%、24年同期比-11%。

○ 製材品の平成27年2～4月の生産量は26年同期比+5%、24年同期比+28%、出荷量は26年同期比±0%、24年同期比+25%、在庫量は26年同期比+25%、24年同期比+28%。

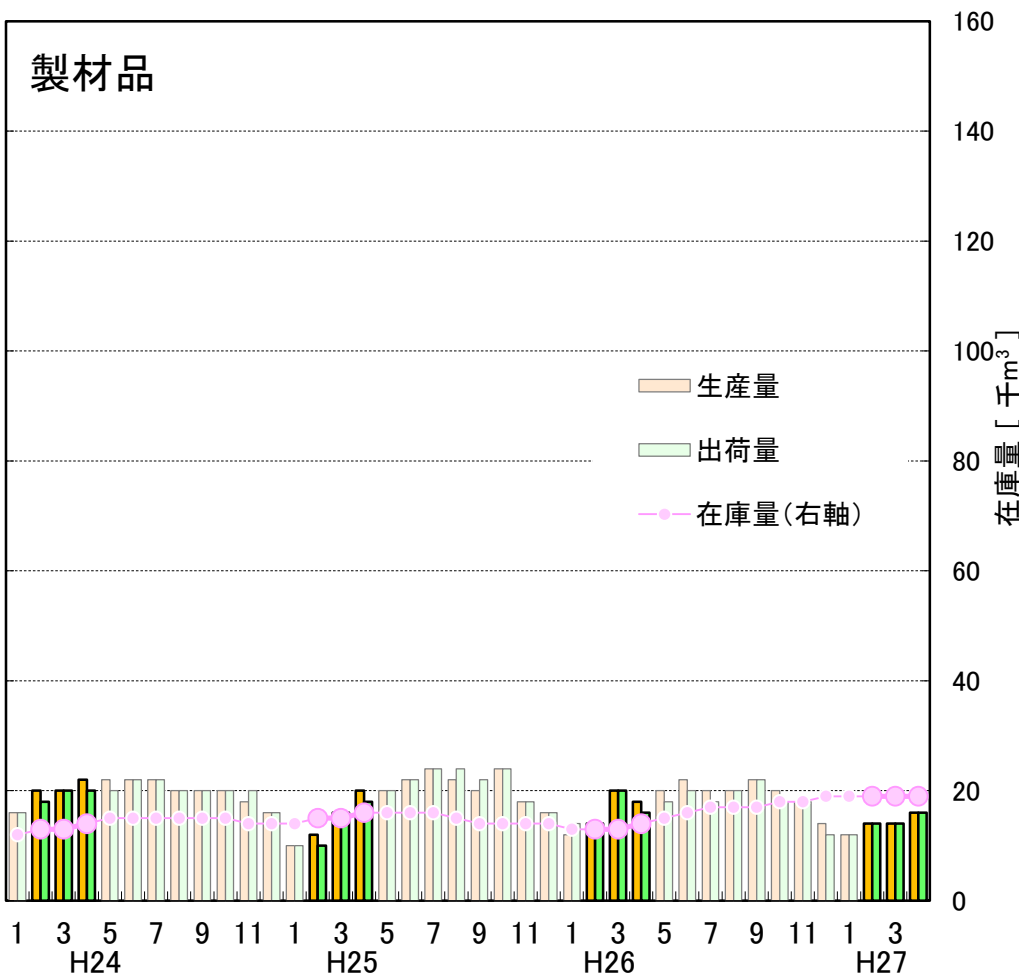
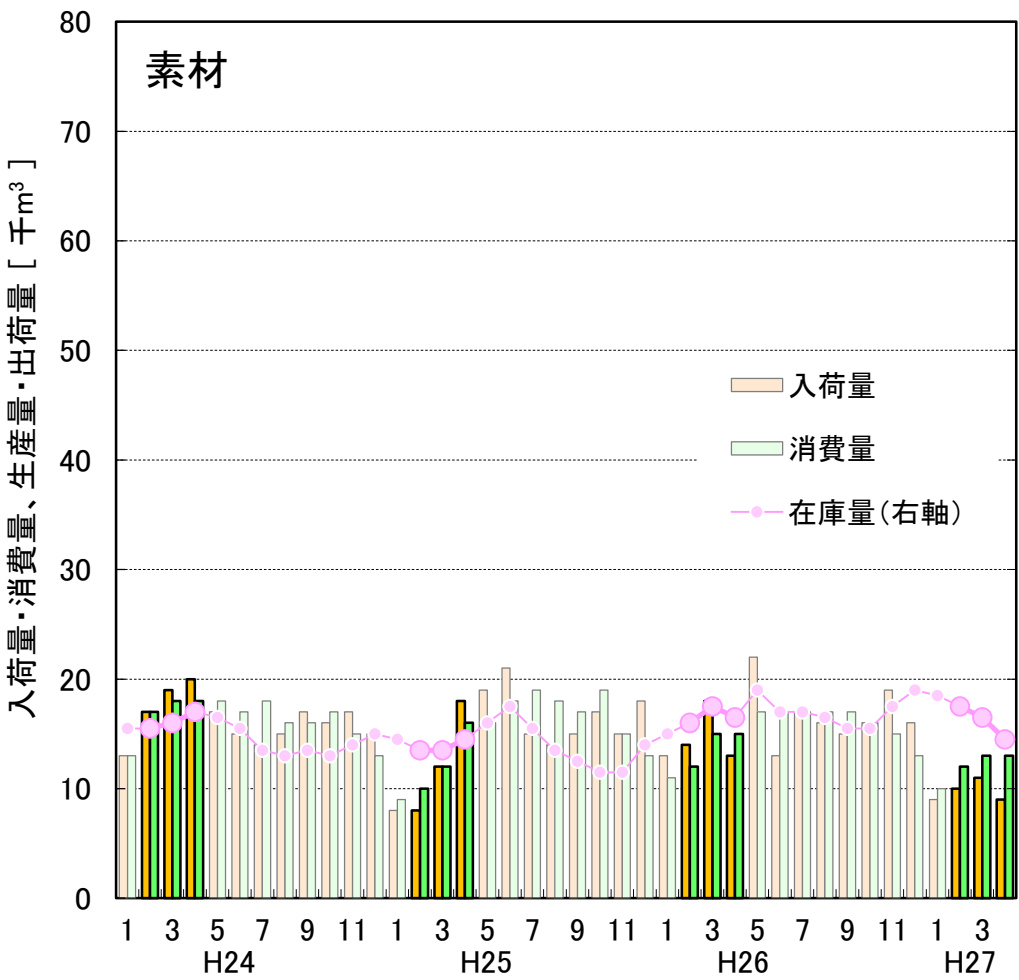


出典：農林水産省「木材需給報告書」「製材統計」

※ 国産材と外材の合計値である。

山形県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成24年1月～27年4月）

- 製材用素材の平成27年2～4月の入荷量は26年同期比－33%、24年同期比－46%、消費量は26年同期比－10%、24年同期比－28%、在庫量は26年同期比－3%、24年同期比±0%。
- 製材品の平成27年2～4月の生産量は26年同期比－15%、24年同期比－29%、出荷量は26年同期比－12%、24年同期比－24%、在庫量は26年同期比＋43%、24年同期比＋43%。

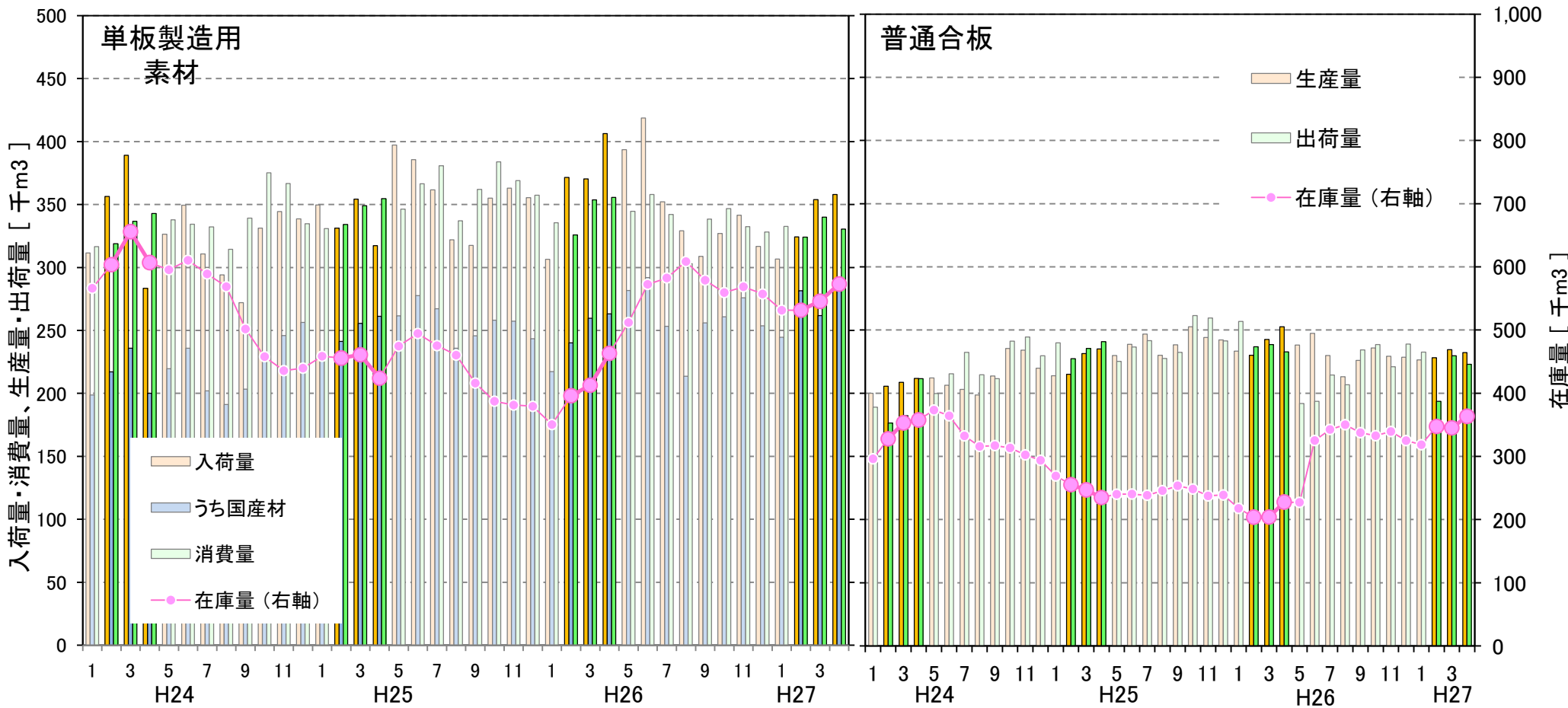


出典：農林水産省「木材需給報告書」「製材統計」

※ 国産材と外材の合計値である。

■ 全国の単板製造用素材・普通合板の生産量等の推移（平成24年1月～27年4月）

- 単板製造用素材の平成27年2～4月期の入荷量は26年同期に比べて－10%、うち国産材は＋8%、消費量は－4%、在庫量は＋30%。24年の同期に比べて入荷量は＋1%、うち国産材は＋27%、消費量は±0%、在庫量は－12%。
- 普通合板の平成27年2～4月期の生産量は26年の同期に比べて－4%、出荷量は－9%、在庫量については＋66%で2年10ヶ月ぶりの高さ。平成24年の同期に比べて＋11%、出荷量は＋13%、在庫量は＋2%。



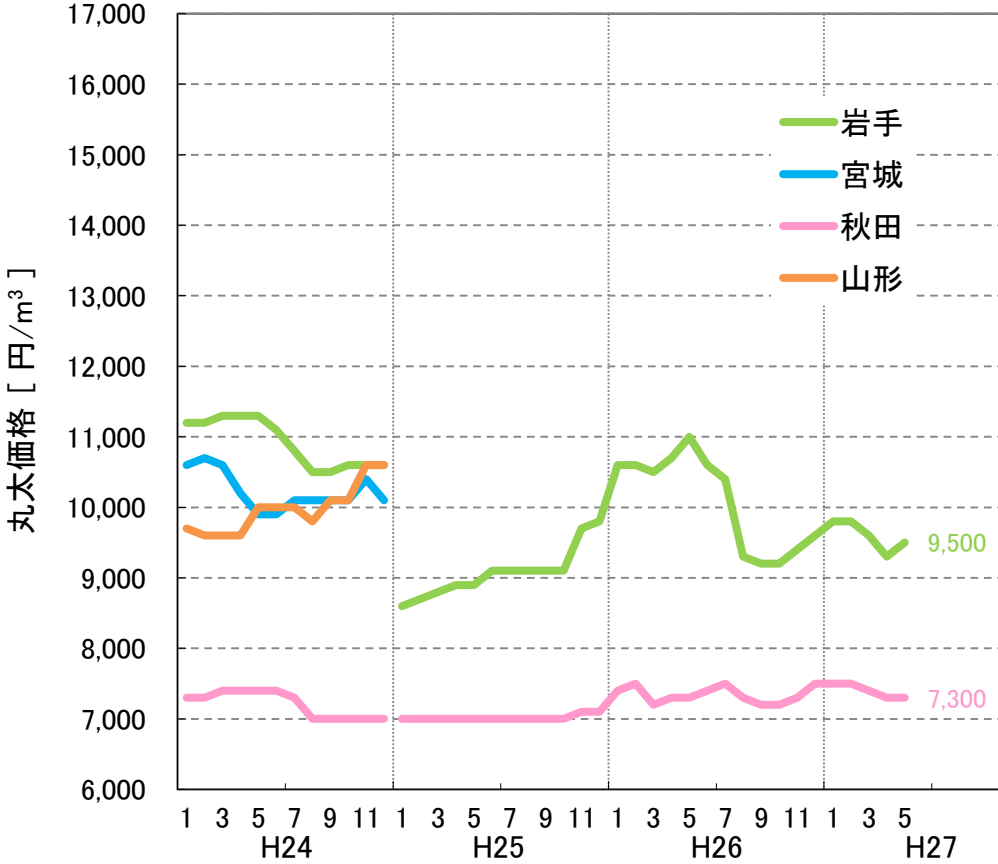
出典：農林水産省「合板統計」

■ すぎ丸太価格の推移 (平成24年1月～平成27年5月)

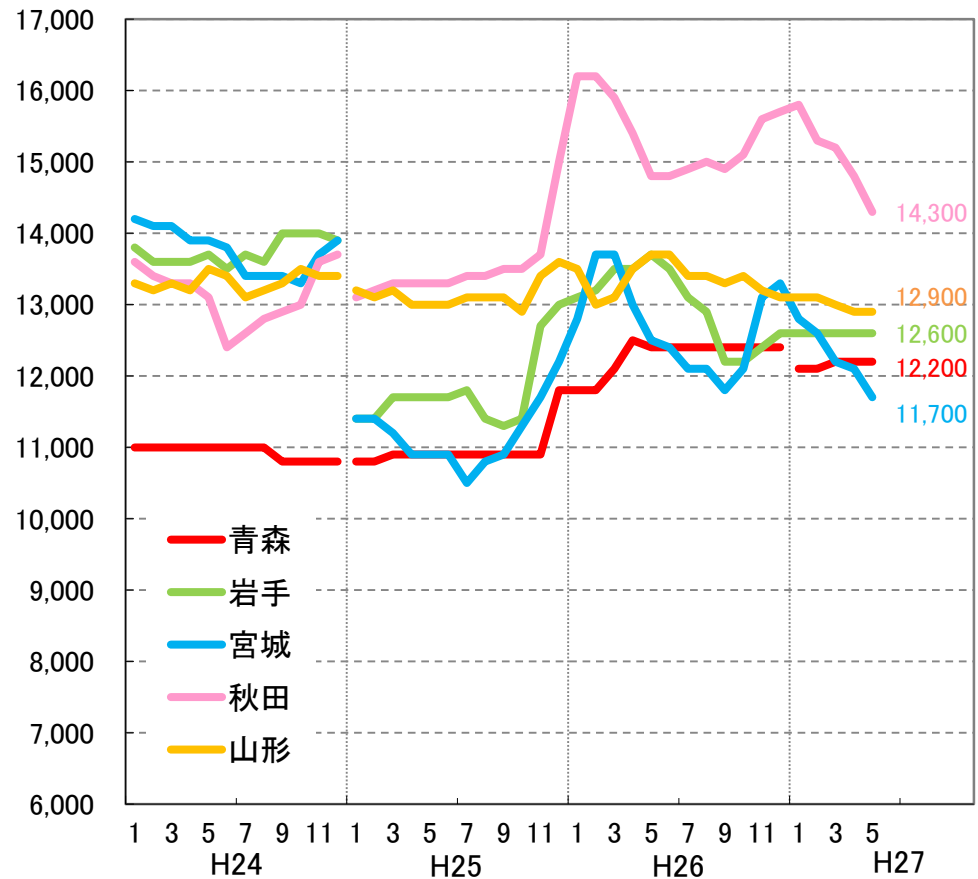
○ すぎ小丸太価格は、岩手では、中丸太より2～3千円程度安い価格で推移。秋田では、7,000～7,500円の低い価格で安定して推移、中丸太との価格差は約半分と大きい。

○ すぎ中丸太価格は、青森が26年3月頃の価格まで下がり、他の4県は25年11月頃の価格まで下がった。現在、宮城は5ヶ月、秋田は4ヶ月連続で下がっているが、青森、岩手、山形はほぼ保合。

すぎ小丸太 3.65～4.00m (8～13cm)



すぎ中丸太 3.65～4.00m (24～28cm)



出典：農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」

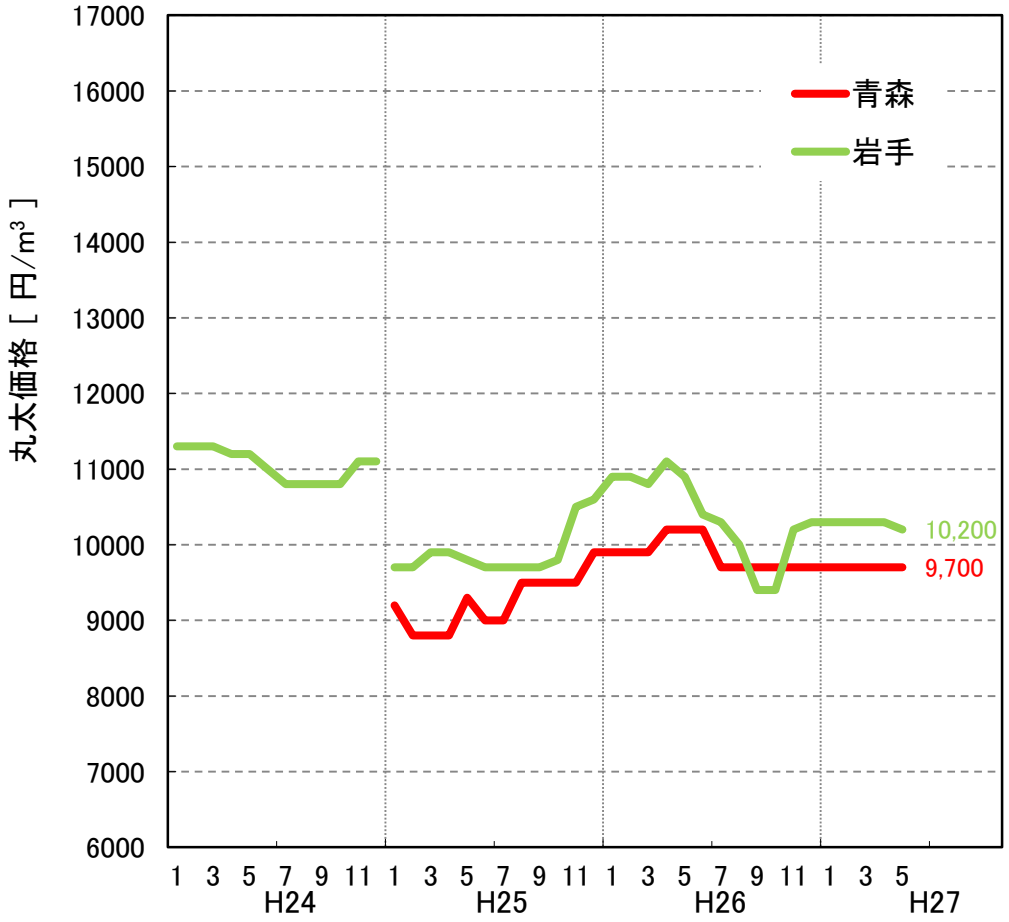
※ 価格は工場着価格
 ※ 平成25年1月から集計方法を従来の単純平均から加重平均に変更したため、それまでのデータとは連続しない。
 ※ 青森のすぎ中丸太は、平成27年1月に調査対象の変更があったため、それ以前のデータとは連続しない。

■ まつ・からまつ丸太価格の推移 (平成24年1月～平成27年5月)

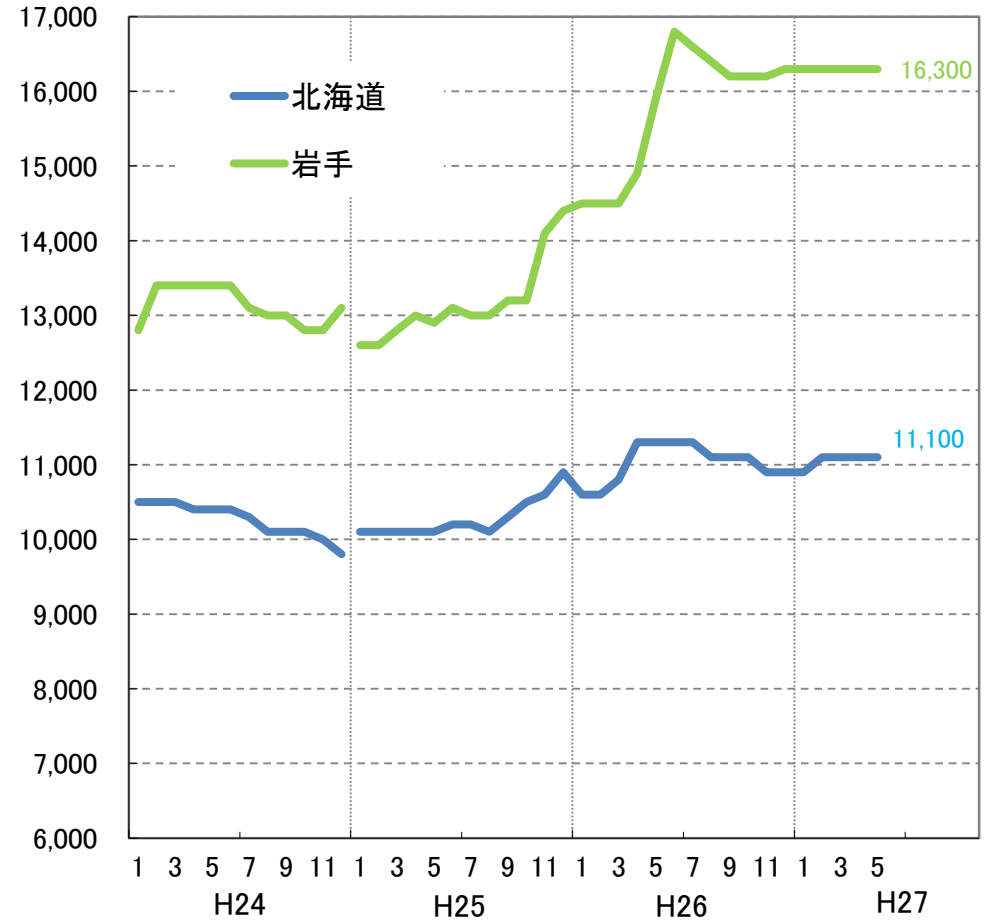
○ まつ丸太価格は、青森は10ヶ月連続で保合。岩手では同県のスギに類似した動きを示し、26年12月以降ほぼ保合。

○ からまつ丸太価格は、26年12月以降保合。北海道との価格差は5,200円に達している。

まつ中丸太 3.65～4.00m (24～28cm)



からまつ中丸太 3.65～4.00m (14～28cm)

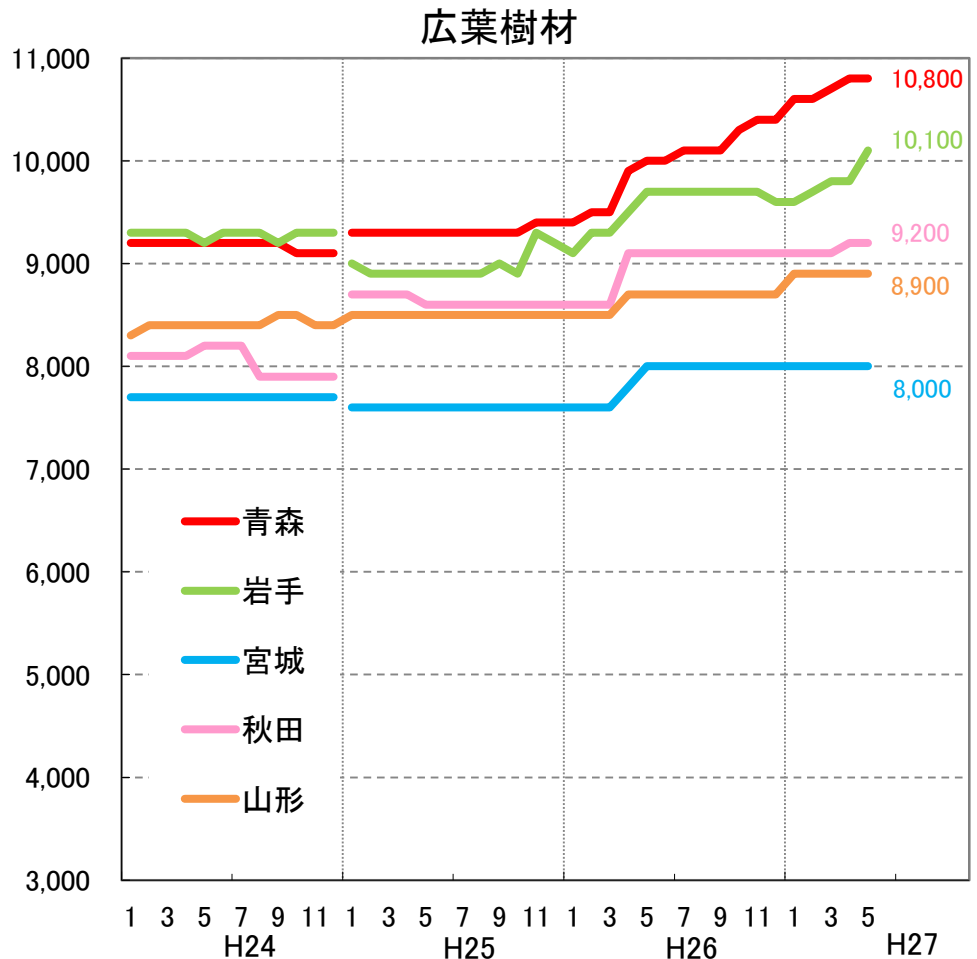
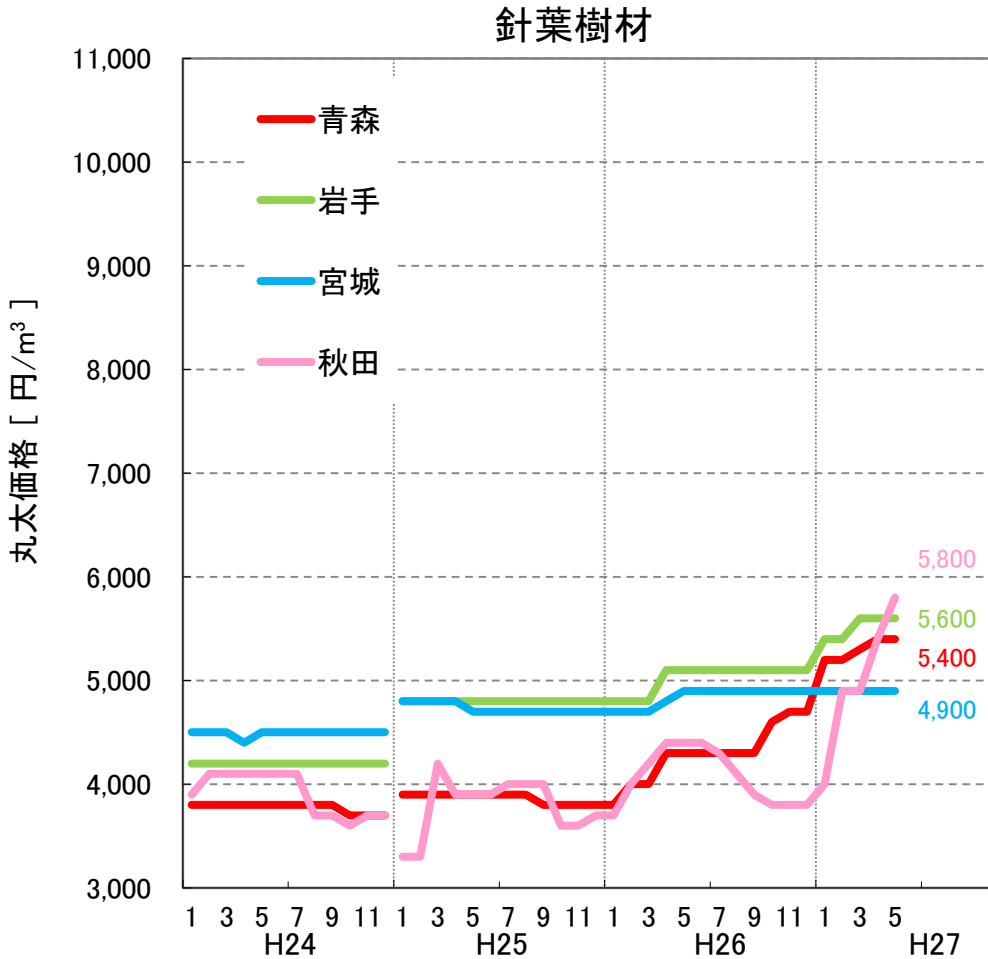


出典：農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」

※ 価格は工場着価格
 ※ 平成25年1月から集計方法を従来の単純平均から加重平均に変更したため、それまでのデータとは連続しない。

■チップ用丸太価格の推移 (平成24年1月～平成27年5月)

- 針葉樹丸太は、宮城以外上昇傾向。秋田は、3月に止まったが、26年12月以降2,000円上がった。
- 広葉樹丸太は、27年1月以降、宮城、山形は保合。青森、秋田では僅かな上昇、岩手では500円上がった。

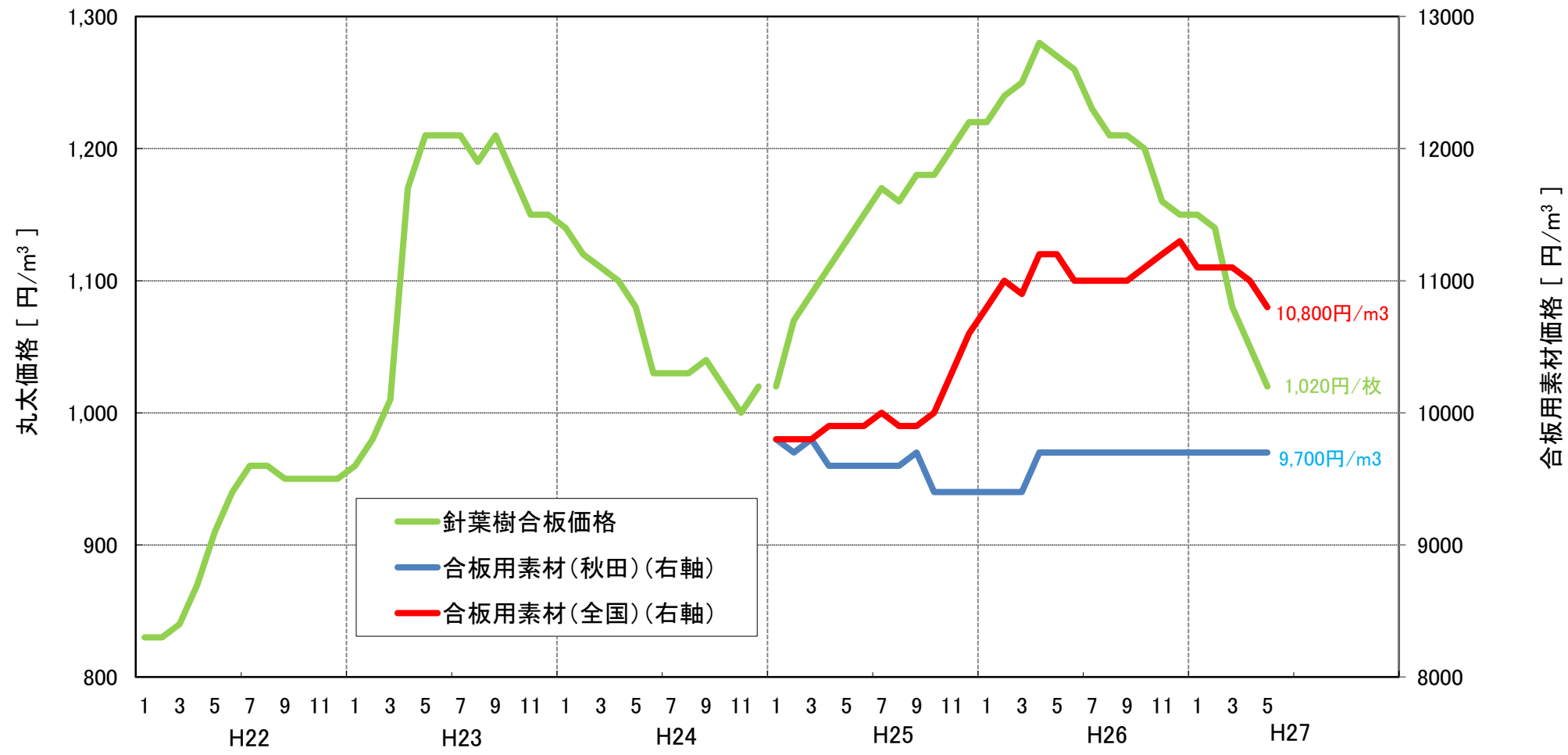


出典：農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」

※ 価格は工場着価格
 ※ 平成25年1月から集計方法を従来の単純平均から加重平均に変更したため、それまでのデータとは連続しない。

針葉樹合板及び合板用素材価格の推移 (平成22年1月～平成27年5月)

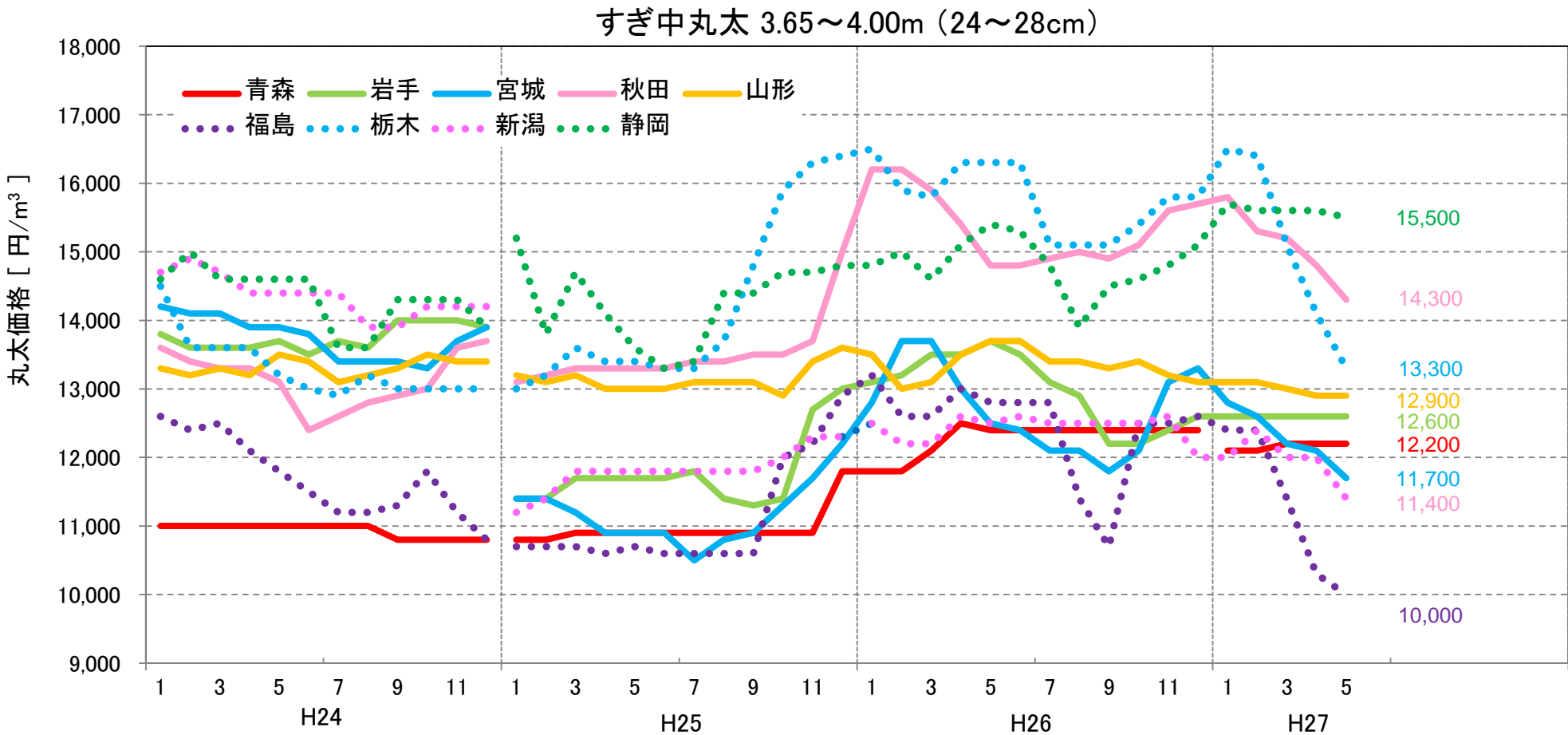
- 針葉樹合板価格は、26年5月以降下落傾向が続き、27年4月は25年1月と同水準となった。
- 合単板用素材価格は、全国では、製品価格より約半年から1年遅れて動く傾向が見られたが、秋田は26年4月以降横ばいである。



出典：農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」
 ※ 針葉樹合板価格は、木材市売市場、木材センター及び木材卸売業者における小売業者への店頭渡し価格。合板用素材価格は、合単板工場着購入価格である。
 ※ 平成25年1月から集計方法を従来の単純平均から加重平均に変更したため、それまでのデータとは連続しない。

関東地方との木材価格の比較 (平成24年1月～平成27年5月)

- 関東のすぎ中丸太の価格は、27年1月以降4月までに、静岡は保合であったが、新潟は600円、栃木は3,200円、福島は2,400円下がった。
- 東北では、この期間、青森、岩手、山形は+100～-200円の変動とほぼ保合であったが秋田は1,500円、宮城は1,100円下がった。



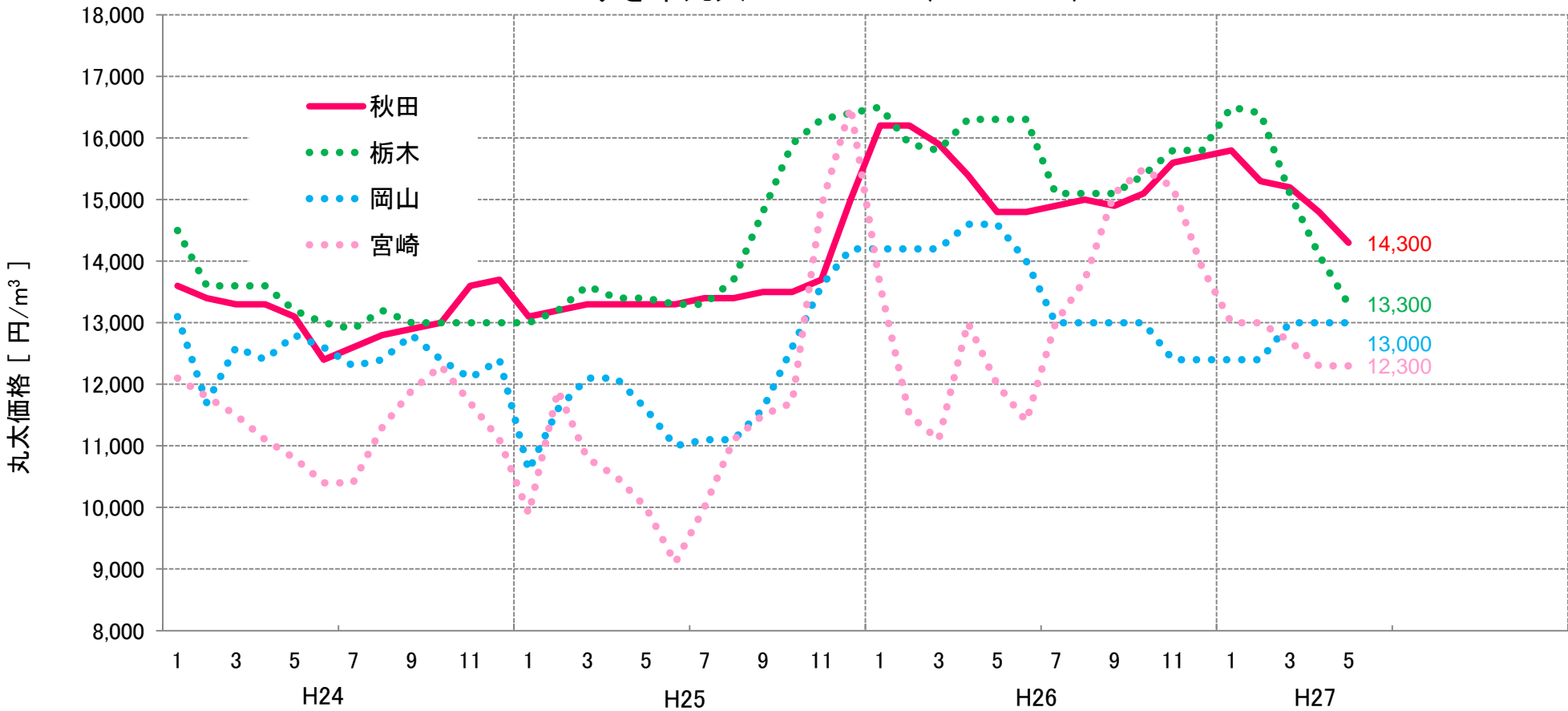
出典: 農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」

- ※ 工場着価格。
- ※ 平成25年1月から集計方法を従来の単純平均から加重平均に変更したため、それまでのデータとは連続しない。
- ※ 青森のすぎ中丸太は、平成27年1月に調査対象の変更があったため、それ以前のデータとは連続しない。

■ 関東、関西、九州地方との木材価格の比較 (平成24年1月～平成27年5月)

- 価格の変動量は秋田、栃木、岡山、宮崎の順に大きくなる。
- 九州、関西方面から価格変化の兆候が現れ、秋田は2～3ヶ月遅れる傾向があり、平成26年秋以降では宮崎、岡山が11月から下がり始め、栃木と秋田は2月から下がり始めた。岡山、宮崎では下げ止まっている。

すぎ中丸太3.65～4.00m(24～28cm)

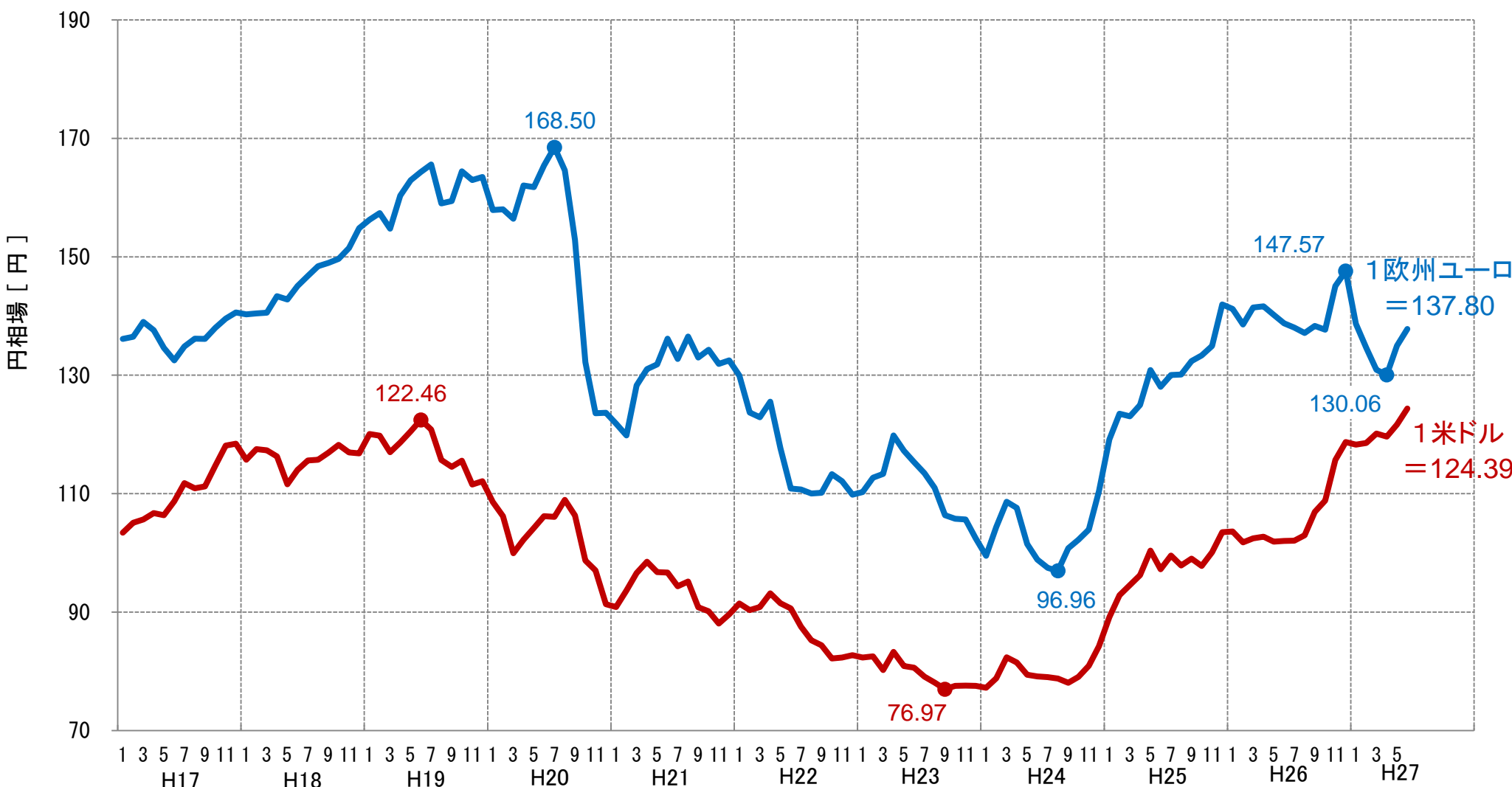


出典: 農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」

※ 工場着価格。
 ※ 平成25年1月から集計方法を従来の単純平均から加重平均に変更したため、それまでのデータとは連続しない。

為替レート推移 (平成17年1月～平成27年6月(3日まで))

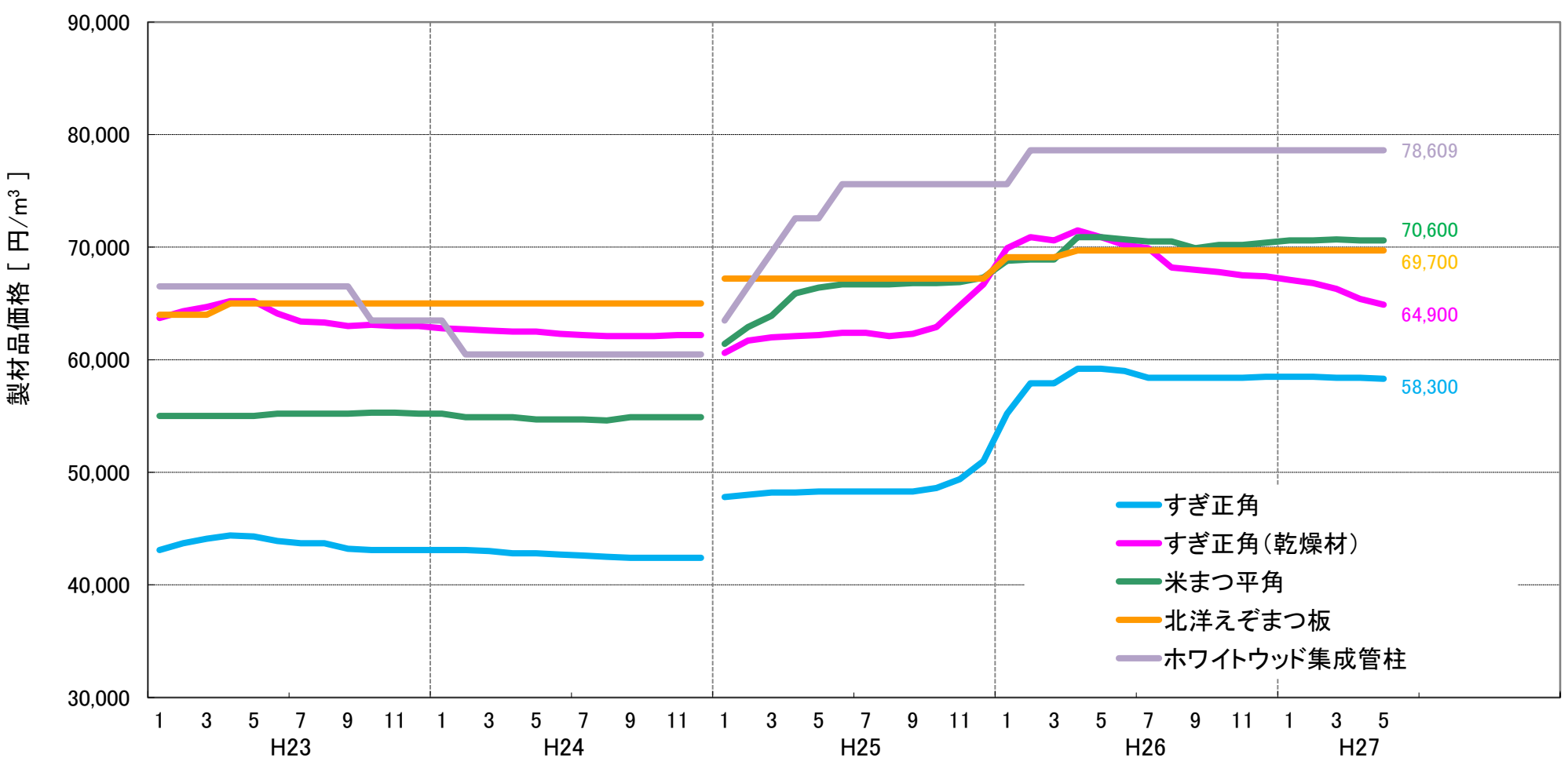
- 欧州ユーロは、平成26年12月に148円まで上がった後3月には130円まで下がったが、その後上昇傾向。
- 米ドルは、平成26年12月以降動きが止まっていたが、平成27年2月から再び上昇傾向となり8年ぶりの円安水準。



出典: Yahoo! ファイナンス (毎月の値は、月間の最高値と最低値の平均)

■ 全国の製材品主要品目価格の推移 (平成23年1月～平成27年5月)

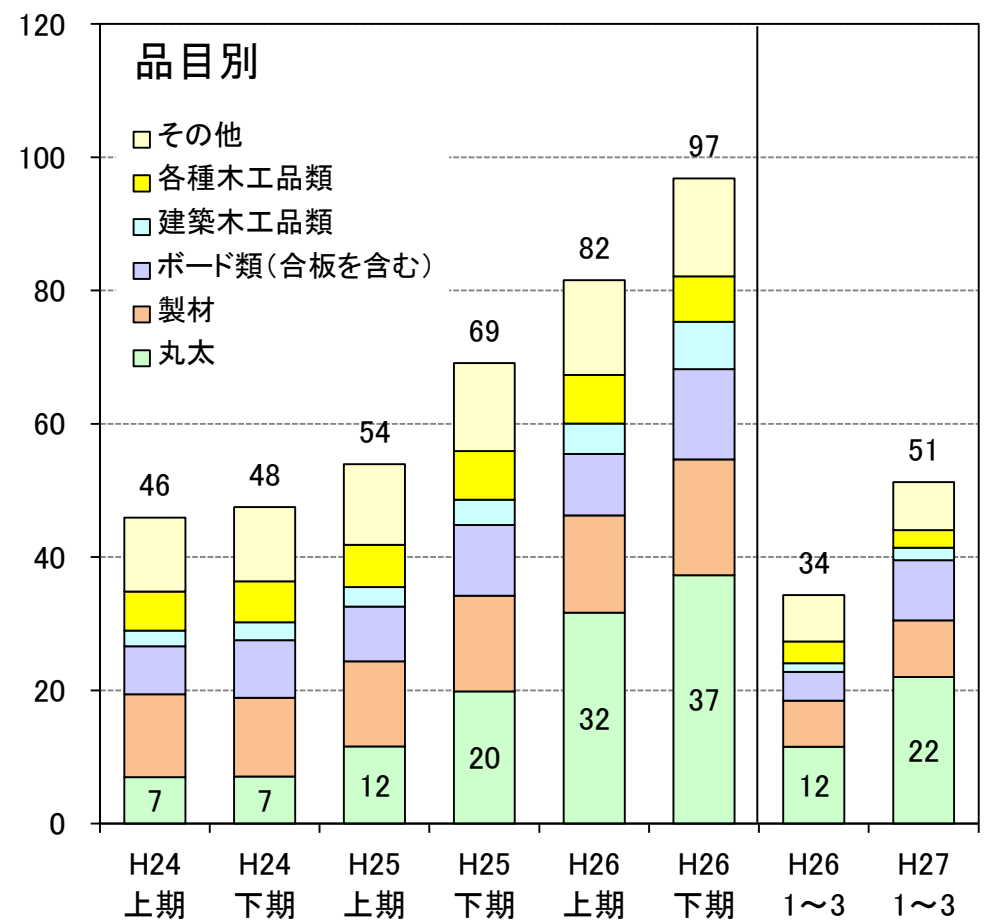
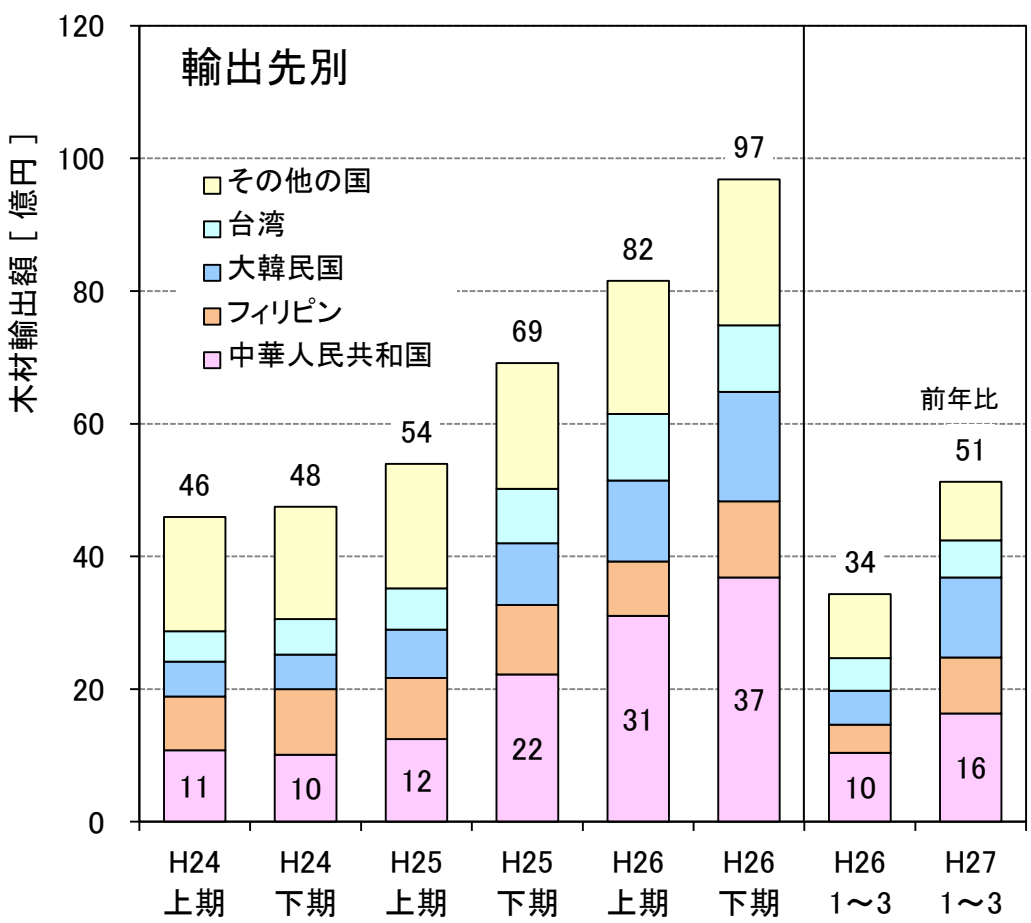
○スギ正角(乾燥)が平成26年5月以降13ヶ月連続で下落し、25年秋の水準まで下がった。
 ホワイトウッド集成管柱、北洋エゾまつ板は保合。スギ正角、米まつ平角は僅かな動き。



出典：農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」
 ※ 価格は、木材市売市場、木材センター及び木材卸売業者における小売業者への店頭渡し価格。
 ※ 平成25年1月から集計方法を従来の単純平均から加重平均に変更したため、それまでのデータとは連続しない。

■ 輸出先別及び品目別の木材輸出額の推移 (全国)

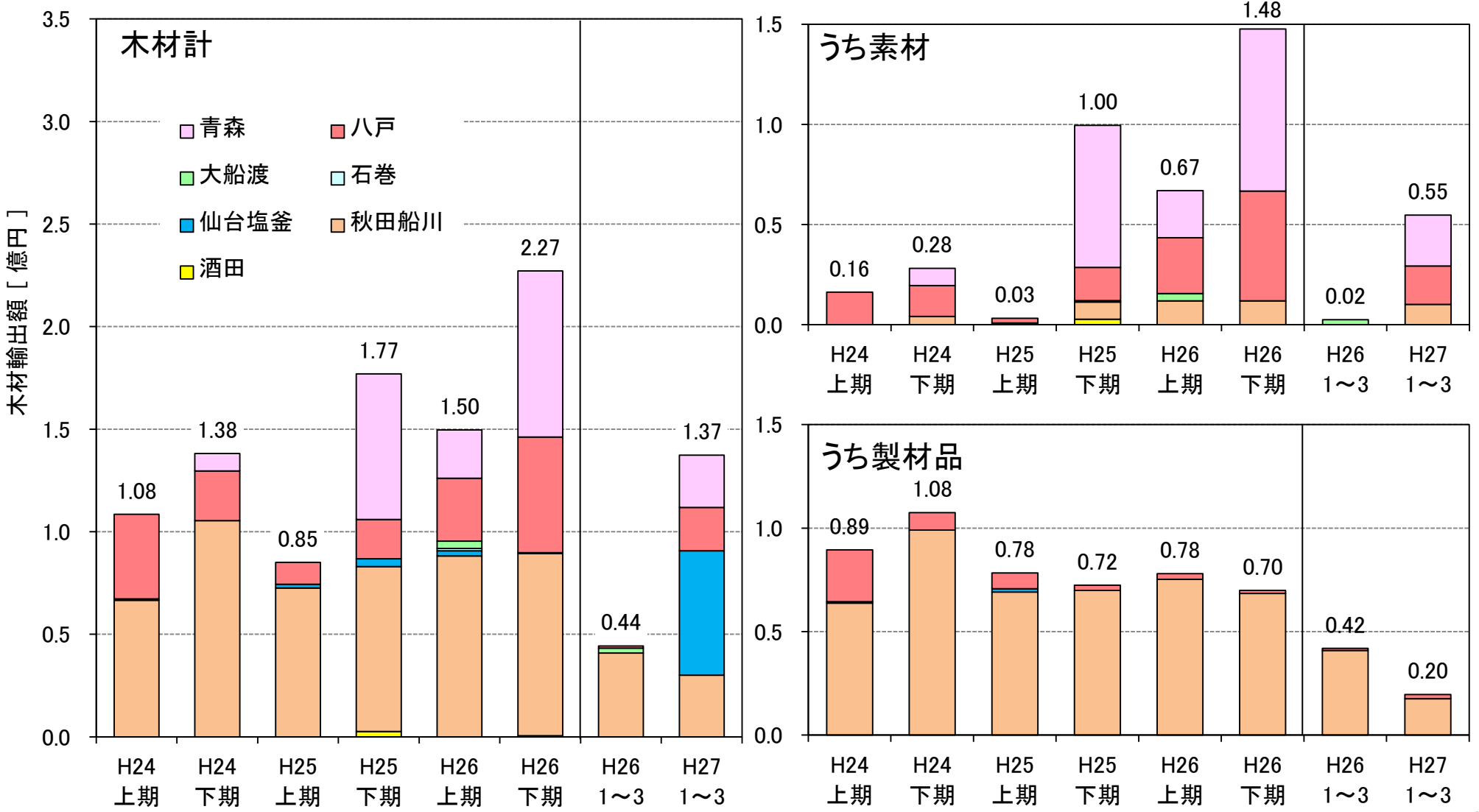
- 木材輸出額は、平成24年の93億円から26年の178億円へと1.9倍に増えている。
- 主要相手国は、中国、韓国、フィリピン、台湾。その4カ国で24年は63%、26年は76%を占めている。27年に入ってからも増加傾向が続き、これら4カ国の占める割合は83%となっている。
- 26年の品目別輸出額は、24年比で丸太+391%、建築木工品類+129%、ボード類(合板含む)+44%、製材+32%、各種木工品類+18%、その他+30%となっている。
- 27年第1四半期は26年同期に比べ素材が+91%、ボード類が+107%と伸びが高い。



出典: 財務省「貿易統計」

■ 東北5県における木材輸出額の推移

- 東北5県からの木材輸出は、秋田船川、青森、八戸の占める割合が高い。
- 平成27年に入ってから輸出は増えており、27年1～3月期の対前年比は+210%となっている。
- 27年1～3月の仙台塩釜からの輸出品目はボード類である。



出典：財務省「貿易統計」